

特別養護老人ホーム「さくらの里」建設事業

勝間一堀遺跡Ⅱ

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2002 . 3

社会福祉法人 高遠さくら福祉会

高遠町教育委員会

特別養護老人ホーム「さくらの里」建設事業

勝間一堀遺跡Ⅱ

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2002 . 3

社会福祉法人 高遠さくら福祉会

高遠町教育委員会



堀遺跡空撮



堀遺跡空撮

2号址 18



表



裏

2号址 21



表



裏

2号址 24



表



裏

2号址 22



表



裏

2号址 19



表



裏

2号址 25



表



裏

2号址 23



表



裏

2号址 20



表



裏

2号址 9



表



裏



第2号住居址出土 深鉢形土器



第3号址出土 須恵器



試掘作業状況



本発掘作業状況



試掘に参加いただいた皆さん



本発掘に参加いただいた皆さん

発刊にあたって

掘遺跡は昭和56年(1981)8月農業総合基盤整備事業のため緊急発掘調査をしました。その調査結果を報告書によって見ると、縄文中期の住居址、平安時代の住居址、中世初期の濠渠址等が発見され、大変重要な遺跡と確認されたため、基盤整備事業を盛土工法に変更して、事業から遺跡を保護することとした経過があります。

今回の発掘調査は社会福祉法人高遠さくら福祉会が特別養護老人ホーム「さくらの里」を建設するに伴い、文化財保護法に基づいて、埋蔵文化財緊急発掘調査を行ったものです。平成12年12月に試掘調査を実施し、翌年13年5月まで本掘調査を実施しました。

今回の調査範囲内北部では、川原石や砂が堆積しており、遺構は無く、いつの頃かこの地帯は三峰川の流路であったと考えられます。また、今回の調査地は全体に水田や畑地として耕作されてきたために、遺構の上面が水田造成の折に削られており、遺構の検出が正確にできないことがありました。

しかし、今回の調査で、縄文から平安にかけての住居址、生活址がいくつか新しく発見されたほか、前回の濠渠址と異なる溝状遺構が新たに確認されました。出土遺物も多く掘遺跡の一層の解明がなされるものと期待されます。

本調査は友野良一先生を団長に、そのご指導のもとで調査員、教育委員会文化財担当者、地元作業員、東郡建設社長、重機オペレーター安藤さん、峰コンサル保科さんなど多くの方々の努力の結集の結果として、調査を完了する事ができたもので、心より感謝申し上げます。また、遺物整理にあたっては県埋蔵文化財センター百瀬長秀先生、市川隆之先生、伊那市教育委員会飯塚政美先生からご指導、ご協力をいただきました。これらの先生方ならびに資料整理にあられた作業員の方々にも感謝申し上げます。ここに報告書の発刊にあたり、団長として本発掘調査に心血を注がれた、今は亡き友野良一先生に心からの哀悼の意を捧げます。

平成14年3月1日

長野県上伊那郡高遠町教育委員会
教育長 中原長昭

例 言

1. 本報告書は、平成12・13年度に実施した特別養護老人ホーム「さくらの里」建設に伴う、埋蔵文化財緊急発掘調査報告書である。
2. この緊急発掘調査は、社会福祉法人高遠さくら福祉会の委託により、高遠町教育委員会が実施した。
3. 本報告書は、短期間の内にまとめることが要求されているため、調査によって検出された遺構及び遺物を、より多く図示・図版化することに重点をおき、その他資料の再検討は今後の機会に譲ることとした。
4. 本報告書の執筆者及び図版製作者は次のとおりである。
 - 本文執筆者 友野良一・松島信幸・寺平 宏・北村勝彦・嶋田佳寿子
 - 図版製作者 友野良一・鈴木 岬・奥田静子・北原五百子・鈴木和恵・嶋田佳寿子
 - 写真撮影 小松善史
 - 土器復元 鈴木 岬
 - 遺物整理 友野良一・鈴木岬・奥田静子・北原五百子・鈴木和恵・小松善史・嶋田佳寿子
5. 本報告書の編集は、主として高遠町教育委員会がおこなった。
6. 遺物及び実測図類は、高遠町教育委員会が保管している。

目 次

口 絵

発刊にあたって

例 言

目 次

挿図目次

図版目次

表目次

第1章	発掘調査の経緯	1
第1節	発掘調査に至るまでの経緯	1
第2節	調査会の組織	1
第3節	発掘調査の経過（調査日誌から）	1
第2章	遺跡の環境	6
第1節	遺跡の位置	6
第2節	地形・地質及び周辺の遺跡分布	7
第3節	歴史的環境	13
第3章	遺構と遺物	14
第1節	調査の概要	14
第2節	遺構と遺物	14
まとめ		43
参考文献		44
あとがき		45
写真図版		

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置図	6
第2図	遺跡付近の地形及び周辺の遺跡分布図	7
第3図	勝間の堀を中心とする段丘地形	9
第4図	堀遺跡遺構分布図	15
第5図	第1号住居址実測図	14
第6図	第1号住居址遺物分布図	14
第7図	第1号住居址遺物実測図	17
第8図	第2号住居址実測図	18
第9図	第2号住居址遺物分布図	18
第10図	第2号住居址遺物実測図	18
第11図	第2号住居址遺物拓影実測図	19
第12図	第2号住居址遺物実測図	20
第13図	第3号住居址実測図	21
第14図	第3号住居址遺物分布図	21
第15図	第3号住居址遺物実測図	21
第16図	第3号住居址遺物実測図	22
第17図	第4号住居址実測図	23
第18図	第4号住居址遺物分布図	23
第19図	第4号住居址遺物実測図	23
第20図	第5号住居址実測図	24
第21図	第5号住居址遺物分布図	24
第22図	第5号住居址遺物実測図	24
第23図	第6号住居址実測図	25
第24図	第6号住居址遺物分布図	25
第25図	第6号住居址遺物実測図	26
第26図	溝状遺構実測図	27
第27図	溝状遺構遺物分布図	27
第28図	溝状遺構遺物実測図	29
第29図	溝状遺構遺物石器実測図	30
第30図	第1号址実測図	30
第31図	第1号址遺物分布図	31
第32図	第1号址遺物実測図	31
第33図	第1号址遺物石器実測図	32
第34図	第2号址実測図	33
第35図	第2号址遺物分布図	33

第36図	第2号址遺物実測図	34
第37図	第2号址遺物実測図	35
第38図	第2号址遺物石器実測図	36
第39図	第3号址実測図	36
第40図	第3号址遺物分布図	37
第41図	第3号址遺物実測図	37
第42図	第3号址遺物実測図	38
第43図	メッシュ区分け遺物実測図	39
第44図	メッシュ区分け遺物実測図	40
第45図	メッシュ区分け遺物石器実測図	41
第46図	表探遺物実測図	42

図 版 目 次

口絵1	堀遺跡空撮	
口絵2	第2号址出土 灰釉陶器	
口絵3	第2号址出土 灰釉陶器	
口絵4	(上) 第2号住居址出土 深鉢形土器 (下) 第3号址出土 須恵器	
口絵5	(上) 試掘作業状況 (下) 本発掘作業状況	
口絵6	(上) 試掘に参加いただいた皆さん (下) 本発掘に参加いただいた皆さん	
図版1	(上) 第1号住居址 (下) 第2号住居址	74
図版2	(上) 第4号住居址 (下) 第5号住居址	75
図版3	(上) 第6号住居址 (下) 溝状遺構	76
図版4	(上) 第1号址 (下) 第2号址	77
図版5	(上) 第3号址 (下) 第1号竪穴	78
図版6	(上) 第1号住居址出土遺物 (下) 第2号住居址出土遺物	79
図版7	(上) 第2号住居址出土遺物 (下) 第3号住居址出土遺物	80

図版 8	(上) 第 4 号住居址出土遺物	81
	(下) 第 5 号住居址出土遺物	81
図版 9	(上) 第 6 号住居址出土遺物	82
	(下) 溝状遺構出土遺物	82
図版 10	(上) 第 1 号址出土遺物	83
	(下) 第 2 号址出土遺物	83
図版 11	(上) 第 2 号址出土遺物	84
	(下) 第 3 号址出土遺物	84
図版 12	メッシュ別出土遺物	85
図版 13	(上) メッシュ別出土遺物	86
	(下) 表面採取遺物	86
図版 14	遺物出土状況	87
図版 15	出土遺物及び、出土状況	88

表 目 次

第 1 表	砂粒分析結果	10
第 2 表	送付試料 砂粒分析結果	11
第 3 表	追加分試料 砂粒分析結果	11
第 4 表	掘遺跡発掘調査遺物一覧表	46

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至るまでの経緯

- 平成12年10月 堀遺跡発掘調査に関わる届出等を提出
平成12年11月 発掘担当者友野良一氏と発掘調査の方法・期間等について事前打ち合わせを行う。

第2節 調査会の組織

○ 高遠町教育委員会

教育委員長	横田 稚
委員長代理	阪下 哲彦
委 員	広瀬 千代美
”	原 太郎
教 育 長	中原 長昭
教育次長	伊藤 清 (平成13年1月まで)
”	伊藤 順一 (平成13年4月から)
生涯学習係長	加藤 俊幸 (平成13年3月まで)
”	丸山 敦 (平成13年4月から)
係	小松 善史
	西村 真紀 (平成13年3月まで)
	田辺 恵一
	嶋田 佳寿子 (平成13年4月から)

○ 発掘調査団

発掘担当者	友野 良一 (日本考古学協会会員・東洋陶磁器学会員)
調査団長	” (”)
調 査 員	松島 信幸 (第四紀学会会員) 地形・地質
”	寺平 宏 (第四紀学会会員) 地形・地質

第3節 発掘調査の経過

発掘調査日誌

2000 試掘調査

12月4日(月) (1名)

12月5日(火) (6名)

12月6日(水) 各グリッドの写真撮影を行い、平面と断面の図面を取る。上段の畑を2m幅で20mに

- わたり、トレンチを掘る。(第1トレンチ) 深さ70~80cmより、縄文中期後葉の土器片が数点出土する。(8名)
- 12月7日(木) 第2、3トレンチを掘る。第2トレンチからは土器片が多数、石器が数点出土する。第3トレンチからは、集石、古墳時代かと思われる鉄鏝が出土。石皿も出土した為、周囲に住居地があると思われる。トレンチ調査と平行して、下の東の水田のグリッドの図面どりを行う。(8名)
- 12月8日(金) 第4トレンチを調査。帯状の集石が確認され、土器片が多数出土。第5トレンチを調査するが、埋め土層が深く、後の調査とする。全体の状態をつかむため、一番西のトレンチを掘る。また、第7トレンチより、壘が2ヶ所出ているので近くに住居地の可能性があると先生よりお話がある。第5、6トレンチは第4と7トレンチの様子と、昭和56年の発掘資料から住居地のある可能性が高いため、本発掘時に改めて調査するものとする。(9名)
- 12月11日(月) 0トレンチを調査する。南半分から、3m×30mの掘り込みと、柱の穴を思わせる穴を2ヶ所検出する。第5、第6トレンチを調査中、それぞれ南側から約3m幅の溝が出る。それぞれを平板、断面、レベルにとって記録する。(8名)
- 12月12日(火) 0トレンチ南半分を西へ掘削するが、何も出ずに打ち切る。第5、6トレンチから検出された溝について、この地区が「堀」という地名であることとの関連が十分に考えられる為、この溝を明らかにすることが、本発掘の重要な意味と思われるため、この溝の調査を行うこととする。第4トレンチ南側から直角に入り、第5、6トレンチへ南東から北西へ、上が2.6m、下が2m幅で伸びている。この溝は堀である。(8名)
- 12月13日(水) 昨日に引き続き、堀を延長して調査を行う。一部が江戸時代の井筋や、56年の調査時のトレンチ(17、20)と交錯していることが確認される。また、来年の本発掘に備えて、第7トレンチの炉址と思われる箇所について、周囲を広げて調査する。結果、炉の址と確認され、この辺りが住居地であったことが明らかになった。これを第1号住居地とする。(8名)
- 12月14日(木) 第8トレンチを掘り、堀の延長している方向を確認し、更に堀を調査する。第8トレンチから、炉とみられる遺構、及び陽石が出土する。午後、松島先生と寺平先生が見え、周辺の地質、地形を調査していただく。調査地の中央付近に2ヶ所グリッドを3mほど掘り、10cmおきにサンプルを採取する。(7名)
- 12月15日(金) 第8トレンチの北側の炉の近くから、埋め壘がほぼ原型を留めたまま出土。ここが縄文中期後葉の住居地であったことが明らかになり、これを第2号住居地とする。峰コンサルによる測量を実施。(8名)
- 12月18日(月) トレンチ内にブルーシートを敷き、本発掘まで保護の為土をかける。堀については、大規模なため、そのままの状態で立入禁止のロープを張り、安全措置をとる。これをもって試掘作業を終了し、テント等を片付ける。事務所にて遺物の整理作業を始める。(5名)

12月19日(火) 遺物整理作業。

2001 本発掘調査

- 4月5日(木) 発掘調査作業員に対する説明会を行う。(16名)
- 4月6日(金) 現地にて発掘調査の安全祈願と諸霊鎮魂のための神事を行う。
友野調査団長による調査方法の説明の後、テントの設営を行う。
表土中の遺物の確認作業。表面採集。(13名)
- 4月9日(月) 表面採集をしながら、表土の剥ぎ取り作業を行う。重機にて、第3トレンチの覆い土を除く。(15名)
- 4月10日(火) 表土中の遺物確認作業の後、第3トレンチを調査する。特に試掘調査の際に石皿が確認された付近を広げて調査。炉が出土。ここを第1号址とする。(15名)
- 4月11日(水) 重機による掘り下げ作業、及び、表土中の遺物確認作業。南東隅の遺物測量をする。(13名)
- 4月12日(木) 南東隅の遺物の取り上げをする。第1号址の遺物を測量し、炉の断面図をとる。(10名)
- 4月13日(金) 南西の隅より、付け高台の灰釉陶器2つ出土。さらに、範囲を広げて掘り下げを行う。友野先生より、灰釉の場合、轆轤の糸切痕が真ん中にあるものほど、時代が古いものであるという説明がある。今回出土したものについては、端の方に糸切痕がみられるため、平安の後期のものではないかとのこと。(13名)
- 4月16日(月) 南東の隅から須恵器の甕が出土。甕の形が見てとれる。ここを第3号址とする。記録を取るため、半分を残して土を取り除く。甕の内部の土は残すのが原則であるというお話を伺う。南東を範囲を広げて表土の剥ぎ取りと掘り下げを行う。柱穴1つ、穴2つ確認。(10名)
- 4月17日(火) 須恵器の測量、及び取り上げ作業を行う。中から土器片を確認。土師器片であるとのこと。北に向かって、表土の剥ぎ取りを行う。4ヶ所で穴を確認。遺物の測量の後、取り上げ作業を行う。(13名)
- 4月18日(水) 雨天の為、作業お休み。
- 4月19日(木) 北側から重機で掘り下げを行う。石匙が出土し、石匙の時代変遷に関して、先生より説明をいただく。北西から北東へと順に表土を剥ぎ取る。第1トレンチ付近で、8個の穴のような跡を確認する。遺物を測量したあと、取り上げを行う。(14名)
- 4月20日(金) 上段畑の北側畔付近まで表土を剥ぎ取り、遺物を確認したあとで平板に落とす。また、昨日確認した穴を掘る。実際に穴として認められたのは4個であった。これらはいずれも土壌であった。第1トレンチ付近より東側にガラ石の層を確認する。石ばかりで、遺物は確認されなかった。河原石や砂ばかりなので、昔の三峰川の流れと関係があるのではないかとのこと。(12名)
- 4月23日(月) 第1トレンチ南端付近一帯から、土器片が多数出土する。また、上段畑北の隅の一角で、地質調査を行う。畑と水田の畔の部分の表土を剥ぎ取り、水田の方へ調査を進めていく。畔の下の方から、灰釉陶器が6個出土。13日に出土した灰釉陶器の出土地

と地続きの為、関連があると思われる。(13名)

- 4月24日(火) 昨日、灰釉陶器が出土した付近を範囲を広げて調査する。さらに、灰釉陶器が1つ、鉄滓が出土。焼け土と炭混じりの土も確認される。ここを第2号址とする。写真撮影の後、平板に落とす。畔の北端から埋壘が出土する。これを第6号住居址とする。また、堀跡の南から、多数の土器片と押しつぶされた形の壘が出土する。ここを第3号住居址とする。堀の南側の土は石ばかりであった。(13名)
- 4月25日(水) 雨天の為、作業はお休み。
- 4月26日(木) 昨日畔下から出土した壘の測量をし、取り上げを行う。また、第3トレンチ南側付近一帯と畑の北東隅のプレハブが建っていた跡を掘り下げるが、遺物は殆ど見られなかった。先日出土の灰釉陶器の部分を記録する。(14名)
- 4月27日(金) 第5トレンチ中央西付近から、直径160cm、底の直径110cm、深さ78cmの堅穴が確認される。これを第1号堅穴とする。堀の南側の掘り下げを行う。石が多く、遺物は少ない。先日付近から出土した埋壘の記録をとった後、取り上げ作業を行う。堀と江戸時代の井筋がぶつかる辺りから焼土が多く混ざった土が見られ、ここを第4号住居址とする。(14名)
- 5月1日(火) 重機のみでの作業で、その他の作業はお休み。重機にて、上段水田部分、堀の北側の残りの表土剥ぎを行う。(1名)
- 5月2日(水) 昨日と同様、重機のみでの表土剥ぎ作業。(1名)
- 5月7日(月) 手掘りによる堀の遺構内部の土出し作業を行う。(13名)
- 5月8日(火) 重機で表土を剥いだ部分を東側から順に掘り下げていく。縄文中期後葉の土器片が何点も出土する。(4名)
- 5月9日(水) 引続き西側へ向かって掘り下げていく。女性の作業員の方々には遺物の洗浄作業をしていただく。(14名)
- 5月10日(木) 残る西側の発掘作業。第4トレンチ西側より埋め壘が出土する。これを第5住居址とする。並行して遺物洗いも行う。(12名)
- 5月11日(金) 第5住居址の壘の実測と取り上げ作業を行う。並行して遺物洗い。(13名)
- 5月14日(月) 遺跡内の最終調査と掃除を行う。(13名)
- 5月15日(火) 事務所での片付け、峰コンサルによる空中撮影、測量を行い大体の発掘作業を終了とする。(12名)
- 5月16日(水) 残った遺物の測量を行い、現場での全作業を終了する。(4名)
- 5月18日~3月 遺物整理作業と報告書の作成。

◀ 発掘調査に参加いただいた方々(順不同・敬称略) ▶

浅川 征司	有賀 一弘	伊東 晃	伊藤 定雄	稲村あつ子
奥田 静子	北原五百子	北原 幸司	小池 正	後藤 祐春
後藤 末江	小松せつ子	小松 正人	小松 泰人	篠田 竹次
鈴木 和恵	鈴木 岬	武井 優	中原 栄	中原 芳子

平沢 恒夫	藤田 明	湯沢 浪人	中原 長昭	伊藤 清
伊藤 順一	加藤 俊幸	丸山 敦	小松 善史	西村 真紀
田辺 恵一	嶋田佳寿子	小田中一男	矢野やよ江	(有) 東部建設

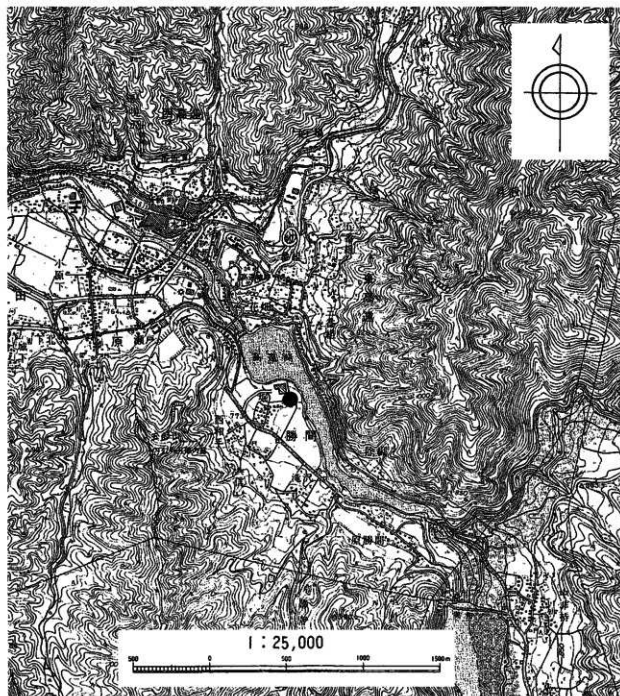
(株) 峰コンサル

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置

今回の発掘調査地である勝間堀遺跡は、長野県上伊那郡高遠町大字勝間小字堀垣外地籍 308 番地外に所在する。地理的位置は、北緯 $35^{\circ} 49' 20''$ 東経 $138^{\circ} 04' 10''$ である。勝間堀遺跡はJR飯田線伊那市駅から国道 361 号で高遠市街に至り、更に国道 152 号を 1.5km 南下した地点にある。またこの遺跡には、中央東線茅野駅から杖突街道（国道 152 号）にて至ることもできる。

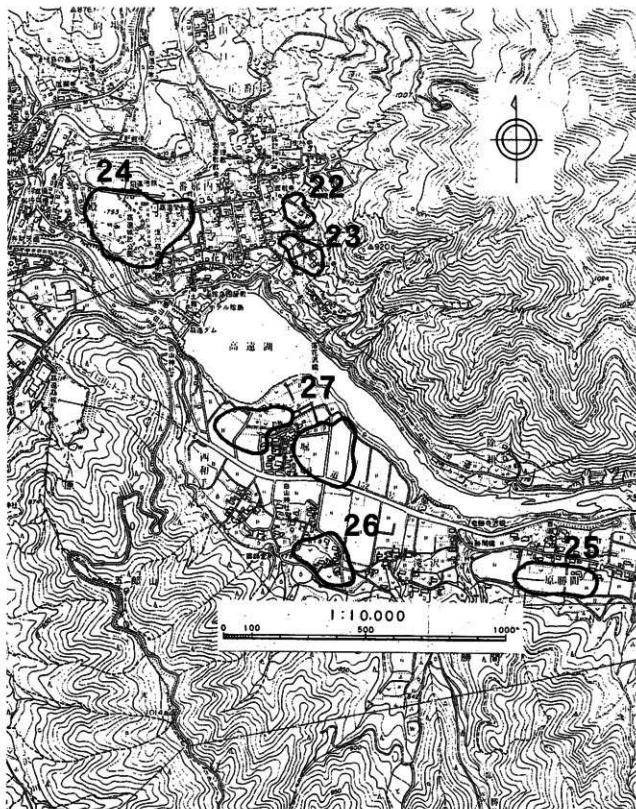
堀遺跡は三峰川と山室川の合流地点から 1.5km 下流に下ったところであり、三峰川が形成する河岸段丘上に位置している。標高は 770m 内外の範囲にある。



第1図 遺跡の位置図 ●今回の調査地

第2節 地形・地質及び周辺の遺跡分布

1) 地形及び周辺の遺跡分布



第2図 遺跡付近の地形及び周辺の遺跡分布図

遺跡名 ㊦桂泉寺(院)遺跡 ㊧花畑遺跡 ㊨高遠城跡 ㊩原勝間遺跡 ㊪西勝間遺跡 ㊫堀遺跡

2) 勝間地区の地形と地質

1、調査地の位置

高遠町勝間は三峰川の高遠ダム左岸段丘上の集落である。主要集落は山麓に沿って並んでいるが、堀集落はダム湖に近い段丘中央に位置する。勝間段丘上を国道152号線が通過するが、主要集落は国道の南側で、堀集落のみが北側にある(写1)。

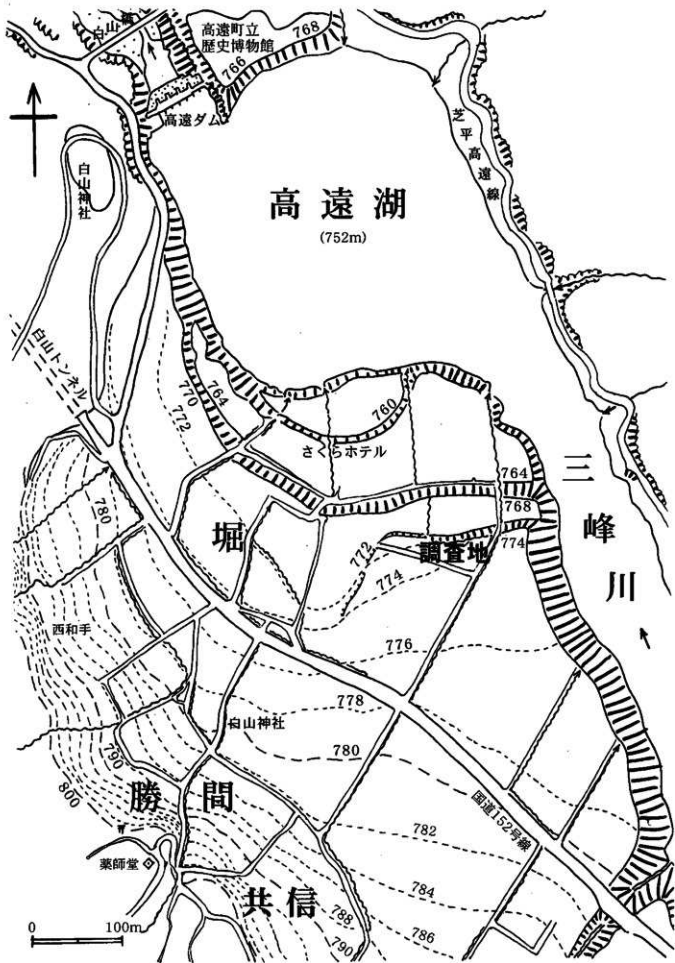


写真1 西側の五郎山方面から勝間を見る。国道152号線が、正面の長谷村から手前に向かっており、その左側集落が堀である。

堀遺跡調査地は集落の東側に隣接しており(写2)、圃場整備された水田地帯である。圃場整備で地形が改変され原地形を復元した(図3)。これによると平坦度の高い勝間の段丘面に対して僅かに低くまっている窪地状の場所に集落がある。



写真2 遺跡の調査地は農道の三叉路、ワゴン車のいる右側の裸地。調査地の向う側が堀集落。その右にさくらホテルとダム湖がある。



第3図 勝間の堀を中心とする段丘地形

破線は等高線でメートル単位、高遠町都市計画図 (1/2500) による

2、溝状の遺跡での砂粒分析と表層の地質

平成12年12月14日に発掘現場を訪れて調査を行った。堀のような溝状の凹地を調査していた。表土が除かれていたので、溝の東側の土手際を掘り込んで表層の地質を調べた(写真3)。厚さ30cmの黒土を載せて、その下位は砂礫層である。テフラ起源の堆積物は何もない。砂礫層は陶汰が悪く、砂岩・チャート・緑色岩・結晶片岩など、すべて三峰川起源の円礫である。10cm以下の礫が主体で僅かに20cm大の礫が含まれる。固結度は弱く、ルーズである。基質は粘土混じりの砂で、酸化して赤褐色になっている場所や、粘土混じりで暗黒灰色の還元色を呈する部分もある。



写真3 地質調査の様子。壁面には三峰川によって堆積した礫層が見える。

調査箇所の砂粒分析結果を表1に示す。テフラ起源の砂粒は新期御嶽テフラ起源の斜方輝石・磁鉄鉱と給良Tn火山灰(ATと記す)・鬼界アカホヤ火山灰(K-Ahと記す)である。これらは産状から再堆積性のテフラであって、地層の年代は1万年より新しい。正確な年代はATとK-Ahの屈折率による同定をしてみないと結論がでない。

第1表 砂粒分析結果

採集地点 (cm)	産状	砂粒の構成比(%)			鉱物・岩片等	火山ガラス の形態他	特徴・対比その他
		火山 結晶	火山 ガラス	岩片 他			
地表から							
0..10	黒土	0	1	9	各種岩石片、fl,blqt,mu>gl	bw	三峰川の砂>給良Tn火山灰(AT), 鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)
10..20	黒土	0	0	100	各種岩石片		三峰川の砂
20..30	黒土	0	1	99	各種岩石片、fl,blqt,mu>gl	bw	三峰川の砂>AT,K-Ah
30..40	漸移帯	0	2	98	各種岩石片、fl,blqt,mu>gl	bw	三峰川の砂>AT,K-Ah
40..50	黄褐色土	0	5	95	各種岩石片、fl,blqt,mu>gl	bw	三峰川の砂>AT,K-Ah
50..60	黄褐色土	0	1	99	各種岩石片、fl,blqt,mu>gl	bw	三峰川の砂>AT,K-Ah
60..70	黄褐色土	0	1	99	各種岩石片、fl,blqt,mu>gl	bw	三峰川の砂>AT,K-Ah
70..80	黄褐色土	0	1	99	各種岩石片、fl,blqt,mu>gl	bw	三峰川の砂>AT,K-Ah

凡例

鉱物・岩片等 bl:黒雲母,mu:白雲母,tl:長石,qt:石英,gl:火山ガラス

火山ガラスの形態他 bw:窓壁型,pm:輝石型

後から、遺跡調査団採取の試料が教育委員会から送られた。その結果を表2・3に示す。地表より80cmまでの試料は表1の結果と同じである。炉址・住居址・須恵器内等からの試料は上記と同じ三峰川起源の砂粒に花崗岩風化砂粒が混入している。溝状遺構内部の土である1試料は御嶽三岳スコリアを含む新期上部テフラである。これは何処から採取したものか分からないので、コメントができない。また、追加試料分(表3)も表2と同じである。

第2表 送付試料 砂粒分析結果

採集地点	砂粒の構成比(%)			鉱物・岩片等	火山ガラスの形態他	特徴・対比その他
	火山結晶	火山ガラス	岩片他			
地表0cm	1	1	98	結晶片岩その他の岩片片 ▷opx.mt gl	bw	三峰川の砂▷御岳テフラ・鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)または始良Tn火山灰(AT)
地表から-10cm	1	2	97	結晶片岩その他の岩片片 ▷opx.mt gl	bw br gl	三峰川の砂▷御岳テフラ・K-Ah+AT?
地表から-20cm	1	5	94	結晶片岩その他の岩片片 ▷opx.mt gl	bw br gl	三峰川の砂▷御岳テフラ・K-Ah+AT?
地表から-30cm	1	7	92	結晶片岩その他の岩片片 ▷opx.mt gl	bw br gl	三峰川の砂▷御岳テフラ・K-Ah+AT?
地表から-40cm	1	3	96	結晶片岩その他の岩片片 ▷opx.mt gl	bw	三峰川の砂▷御岳テフラ・K-Ah+AT?
地表から-50cm	0	1	99	fl.blqt 結晶片岩その他の岩片片	bw	三峰川の砂▷御岳テフラ・K-Ah+AT?
地表から-60cm	0	0	100	結晶片岩その他の岩片片		三峰川の砂
地表から-70cm	1	1	98	結晶片岩その他の岩片片 ▷opx.mt gl	bw	三峰川の砂▷御岳テフラ・K-Ah+AT?
地表から-80cm	0	0	100	結晶片岩その他の岩片片		三峰川の砂
炉址の土(1号址)0地点	5	1	94	結晶片岩片 fl.blqt opx.mt.ho gl	bw	花崗岩類および各種岩石風化物▷御岳テフラ▷鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)?始良Tn火山灰(AT)?
炉址の土(1号址)10地点	5	1	94	結晶片岩片 fl.blqt opx.mt.ho gl	bw	花崗岩類および各種岩石風化物▷御岳テフラ▷K-Ah?, AT?
炉址の土(1号址)20地点	5	1	94	結晶片岩片 fl.blqt opx.mt.ho gl	bw	花崗岩類および各種岩石風化物▷御岳テフラ▷K-Ah?, AT?
3号住居址(ホ3住3-1~3-4)No.188カメの中の土	1	1	98	結晶片岩片 fl.blqt gl	bw	結晶片岩を主とする岩石の風化物▷花崗岩類風化岩片▷K-Ah?, AT?
3号住居址(ホ3住3-1~3-4)No.188カメの中の土	0	0	100	fl.blqt 結晶片岩片		花崗岩類および各種岩石風化物
3号址(6-1~No.87)須恵器底部の土	0	0	100	fl.blqt 結晶片岩片		花崗岩類および各種岩石風化物
3号址(6-1~No.88)須恵器内部の土	1	1	98	fl.blqt 結晶片岩片▷ opx.mt gl	bw	花崗岩類および各種岩石風化物▷御岳テフラ▷K-Ah?, AT?
4号住居址(No.237)カメの中の土	1	1	98	fl.blqt 結晶片岩片▷ opx.mt.ho gl	bw br gl	花崗岩類および各種岩石風化物▷御岳テフラ▷K-Ah?, AT?
5号住居址(5住4-1,2)No.203, 隣の穴の土	0	1	99	fl.blqt 結晶片岩片▷gl	bw	花崗岩類および各種岩石風化物▷御岳テフラ▷K-Ah?, AT?
堀割内部の土	100	0	0	mt.opx.cpx		御岳三岳スコリア(MtS)

凡例

鉱物・岩片等 opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, mt:磁鉄鉱, hoc:角閃石, bl:黒雲母, fl:長石, qt:石英, gl:火山ガラス
火山ガラスの形態他 bw:泡壁型, pm:霽石型, br-gl:褐色ガラス

第3表 追加試料 砂粒分析結果

採集地点	砂粒の構成比(%)			鉱物・岩片等	火山ガラスの形態他	特徴・対比その他
	火山結晶	火山ガラス	岩片他			
1.堀割 下部の土	0	0	100	fl.blqt 結晶片岩を主とする岩片片		花崗岩類風化物▷結晶片岩類風化物
2.堀割 中部の土	0	0	99	結晶片岩を主とする岩片片 gl	bw	結晶片岩類風化物▷始良Tn火山灰(AT)または鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)
3.堀割 上部の土	0	0	100	結晶片岩その他の岩片片 fl.blqt		結晶片岩類風化物および花崗岩類風化物

凡例

鉱物・岩片等 opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, mt:磁鉄鉱, hoc:角閃石, bl:黒雲母, fl:長石, qt:石英, gl:火山ガラス
火山ガラスの形態他 bw:泡壁型, pm:霽石型, br-gl:褐色ガラス

3、勝間段丘の地形と堀の形成

勝間段丘の中で堀地区の地形は特異である。発達史を踏まえて整理すると次のようになる。

- (1) 堀地区は高遠ダム湖に向けて、北に開いた微低地になっている。
- (2) 堀地区の後背地にあたる共信と西和手の集落背後の山地からは大きな谷はなく、勝間南地区の滝沢や竜勝寺沢の様に段丘を掘込んでいく侵食力がない。
- (3) 堀地区からダム湖まで、3段の段丘が発達している。これを堀段丘群と呼ぶ。
- (4) 堀段丘群の配列は長方形のダム湖の形と調和的である。
- (5) 三峰川は高遠ダムか堰堤から下流が狭窄部を造っている。兩岸の基盤岩はざくろ岩珪線礫片麻岩で堅く、侵食に抵抗して狭い峡谷になっている。
- (6) ダム堰堤より上流側は三峰川本流の遊水池となり、そこに勝間段丘が発達してきた。
- (7) 三峰川から膨大な砂礫が搬出供給された10数年前には狭窄部はなく、高遠城址公園の高遠から、勝間地区五郎山の突端部まで一続きの扇状地を形成した。
- (8) その後、三峰川の侵食力が復活したため、三峰川の流れは五郎山突端の白山神社下を掘り下げて峡谷部を形成するに至った。
- (9) 三峰川の洪水時には狭窄部がつかまって上流側に遊水池ができる。このとき、右岸の花畑にぶつかって反転した流れは砂岩の堀地区を侵食して段丘を形成した。こうした働きは下位の段丘ほど顕著に現れている。
- (10) 堀地区の微低地は勝間段丘ができた1万数千年前以降からの出来事である。
- (11) 堀地区後背地からの排水が遊水池へ流れ込む結果、浅く掘り込まれた。
- (12) その後は順次、遊水池からの掘り込みで2段、3段と低位段丘ができていった。こうした背景には、地盤の隆起運動が反映している。
- (13) 遊水池の成因には断層が関係すると予想される。



写真4 中央の裸地が調査地。調査地の水田から手前に向かって2段の段丘崖が認められる。北側からの写真で背景が勝間段丘と勝間集落

参考文献

- 最新の文献のみを記す。この文献に三峰川流域の文献類が引用してある—
- 松島信幸, 2001, 南アルプス北部, 三峰川沿いの更新世後半(海洋酸素同位体ステージ6以降)の造地形史, 飯田市美術博物館研究紀要, 11, 79~96.

(松島 信幸・寺平 宏)

第3節 歴史的環境

〈高遠町勝間の歴史的環境〉

勝間は三峰川によって形成された、河岸段丘上に発達した集落であり、東の方から、小山沢、絵ヶ谷、奈良地、猫場沢、宮の入、田の入、矢田入、熊の川などの沢水が扇状地を形成し、格好な居住地が提供された。完全に山に囲まれた窪地は、縄文人の生活に最適の地であり、幾千年もの間平和な縄文の里が営まれ、弥生、平安の時代へと継がれていったに違いない。古来葛と麻とをよく産し、往古貢物とした。地名の由来もまた、その葛と麻が「葛麻」に転訛したことによるという。また、崩壊地形や崖状地形をいう地名とも考えられるという説や、川に近い上に山裾であり、また、「かつ」は湿地帯の語源であることから、所々に湿地のあるところとも説かれている。

西和手、堀、原勝間と縄文中期を主に弥生、平安、更に中世に至る遺跡がほぼ前面に存在している。大正期には、先土器時代の遺物である珪岩製木葉形石槍の逸品が採集されており、縄文中期を主に平安期に至る遺跡が多く、堀遺跡では、縄文中期大集石群・平安集落・中世堀遺構などが発見されている。古記録には布引岩の膳碗伝説が、また、「高山深谷で猪鹿の類が多く住み…。人蔘色をよくし、肥える地…」とあるごとく、その昔は、広葉樹林に囲まれ栗・どんぐり・胡桃など得られ食用に供され、山麓は格好の狩猟場であり、魚族も豊富な三峰川であって、太古より人跡を留めた地と思われる。その地形からも要害地であり、居住性もよく若宮原・宮の入・御所垣外などの地名、また、中でも現在の共信地区に残る「庄地家」という地名については、12～13世紀頃大寺社の私有地、すなわち荘園が増え、管理する荘官は年貢の取立てから荘園の治安、外敵の侵入を防ぐ等の任にあたった。「庄地家」は「庄司家」の当て字と思われる。この地帯は古くから水田地帯でもあり、堤地籍ともいわれ、龍勝寺への通り道でもあり、また、鎮守の白山社に近い所から和尚田、禰宜田もあったと思われる。これら古代文明を解明するのに、重要な意義をもっている遺跡である。

天正10年(1582)3月2日、高遠城落城の時、勝間の農民たちはいち早く城に入り、仁科五郎盛信ほか諸士の遺体を三の丸南の池で清め、若宮原に移し茶毘に付した後、五郎山の屋根に埋葬したと伝えられている。尾根から勝間集落に向かって「小山田備中昌辰祠」「渡辺金太夫照」「花祠」「諸士の祠」の順に祠が建てられている。

滝沢にある龍勝寺について、天正8年(1580)3月9日、武田勝頼は同寺の寺規を定めている。なお、この文書は「龍勝寺文書」として同寺に保存されている。

勝間の地名が見られるのは室町期からで、村名としての「勝間村」は江戸期から明治初期である。嘉永3年(1850)には、勝間は龍勝寺沢を境に原勝間(東勝間)33軒と西勝間57軒に分かれる。蔬菜、麻の栽培を、特に養蚕は藩の養蚕奨励もあり、文政年間には副業化した。村内には、木客・大工・屋根職・左官・鍛冶職人が多くおり、夫役を課せられたが職人士族と称され、袴を着て家中の仕事に向向いていた。また、この村は、藩主御用米作田の耕作を命じられており、農家でも下座敷に床の間を置く家があったと言われる。

(北村 勝彦)

第3章 遺構と遺物

第1節 調査の概要

今回の調査は、特別養護老人ホーム「さくらの里」建設に伴う、埋蔵文化財の記録・保存のため実施した調査である。調査は平成12年12月4日から平成13年5月16日まで実施した。調査は試掘調査と本発掘調査の2次に及び、調査面積は試掘調査、本発掘調査合わせて約2600㎡である。試掘調査の結果、本発掘調査地以北には、遺構がみられないことが明らかとなった。

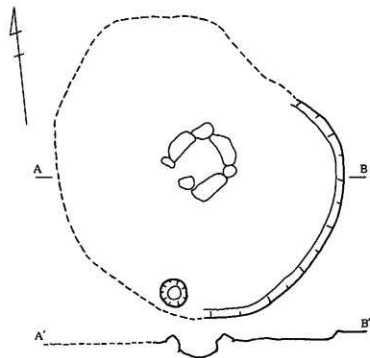
試掘調査では縄文中期後葉の竪穴式住居址2軒、平安時代の溝状遺構を1基確認した。続く本発掘調査では、縄文中期後葉の竪穴式住居址4軒、縄文中期後葉の生活址を1址、平安時代の生活址を2址、時期不明の竪穴が1基確認された。

第2節 遺構と遺物

第1号住居址 (第5～6図・図版1上)

遺構

本址は調査区H-3の区間に施された遺構である。その規模は、東西7m、南北7m、深さ約1mであるが、石囲炉を中心とした縄文中期後葉の住居址である。



第5図 第1号住居址実測図

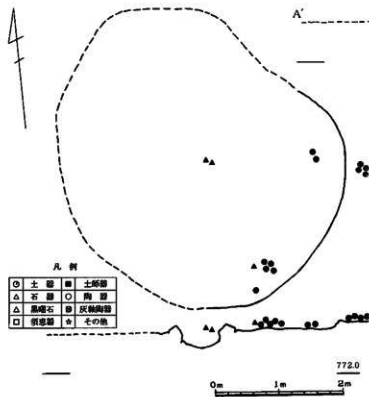
遺物 (第7図・図版6上)

土器

1は斜縄文。2は爪形押引文。3は平行文。4は粘土紐貼付文。5は平行線文と隆線蛇行文。6は縄文と沈線蛇行文。7・8は粘土紐併行貼付文。9は斜縄文。10は綾杉文。1～10まではいずれも縄文中期後葉の土器である。

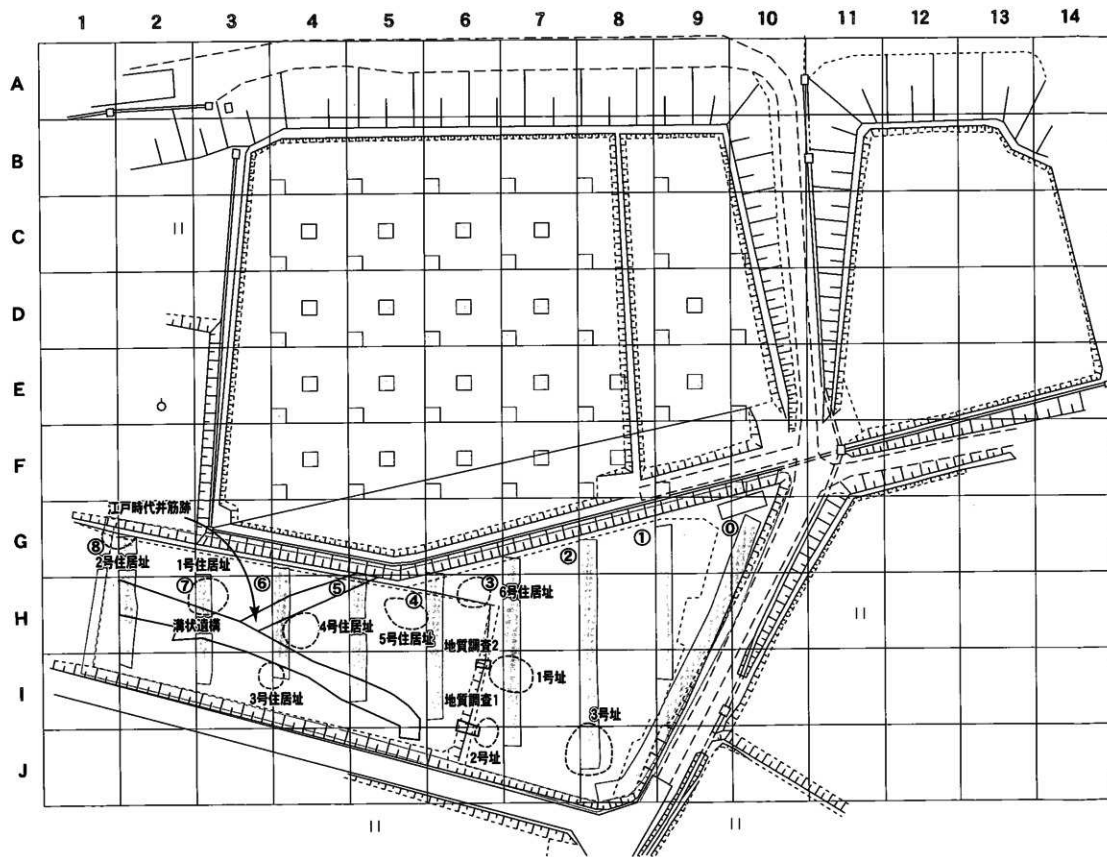
石器

11は緑色岩打製石器、12は緑色岩打製石器、13は緑色岩の打製石器。これらはいずれも縄文中期である。14は須恵器の片で、平安時代と見られる。



第6図 第1号住居址遺物分布図

堀遺跡遺構分布圖

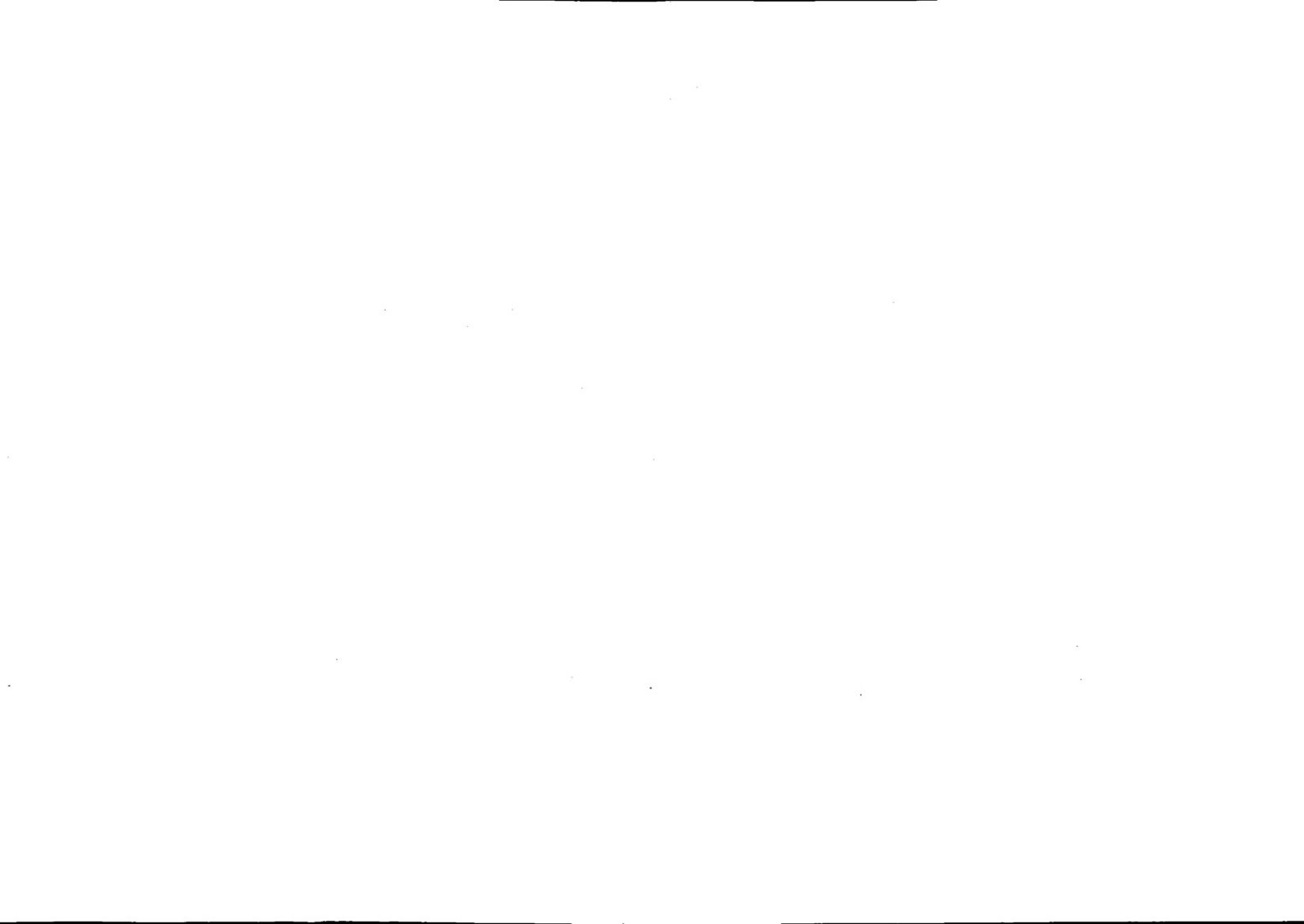


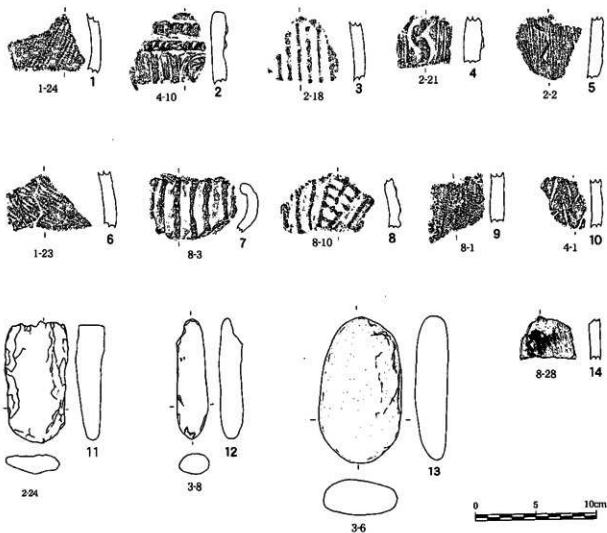
Scale = 1/500

凡例

- 試掘調査箇所
- 本発掘調査範囲
- 住居址等
- 溝状遺構

第4図 堀遺跡遺構分布圖





第7図 第1号住居址遺物実測図

第2号住居址 (第8~9図・図版1下)

本址は、本調査区G-1~2の民地との境である地区に発見された遺構で、遺構の半分以上は調査できなかつた。遺構の規模は東西6.6m、南北3mで、深さ約1m程であつた。住居址の壁には特別な施設は見当たらなかつた。また、床面にも特別な施設はなかつたが、本址中央から埋甕が出土し、方形の石蓋がしてあつた。

遺物 (第10~12図・図版6下, 7上)

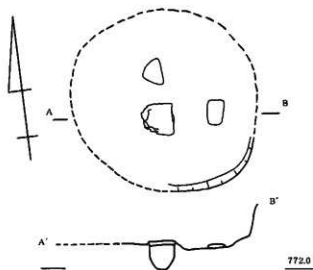
土器

1は口径31cm、高さ39.6cmの深鉢形土器。口縁部には粘土蛇行文が見られ、胴部には綾杉文が見られる。2は深鉢形土器の上部で、渦巻文、蛇行文が見られる。3は隆起線文に渦巻文と平行線文が見られる。4は隆起線文に渦巻文と刺突文。5は斜縄文に平行沈線文。6は深鉢形土器の口縁部で、隆起線文に刺突文と押し文。7は深鉢形土器の胴部で、地が斜縄文で主文が隆線と沈線による渦巻文。唐草文系Ⅲ期のもの。8は地が綾杉文で主文が渦巻文。唐草文系Ⅲ期か。9は深鉢形土器の底部である。1~9はいずれも縄文中期後葉のものである。

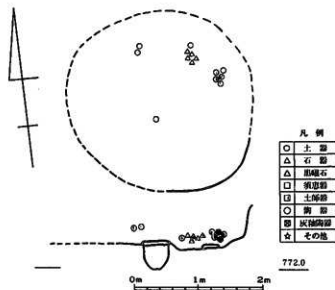
石器

10は綠色岩の凹石。11は綠色岩の蔽石。12は打製石斧。13は打製石斧。14は1の埋甕の蓋石。縦35cm、横40cm、厚さ5cm。15は1の埋甕の底に敷いてあった石。縦16cm、横15.5cm、厚さ3.5cm。

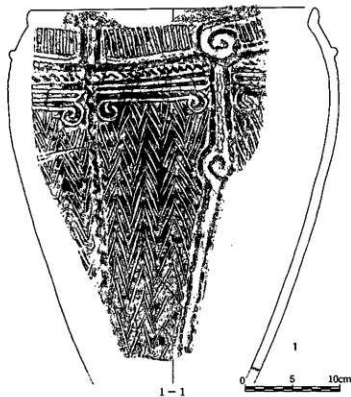
(挿図なし、図版のみ)



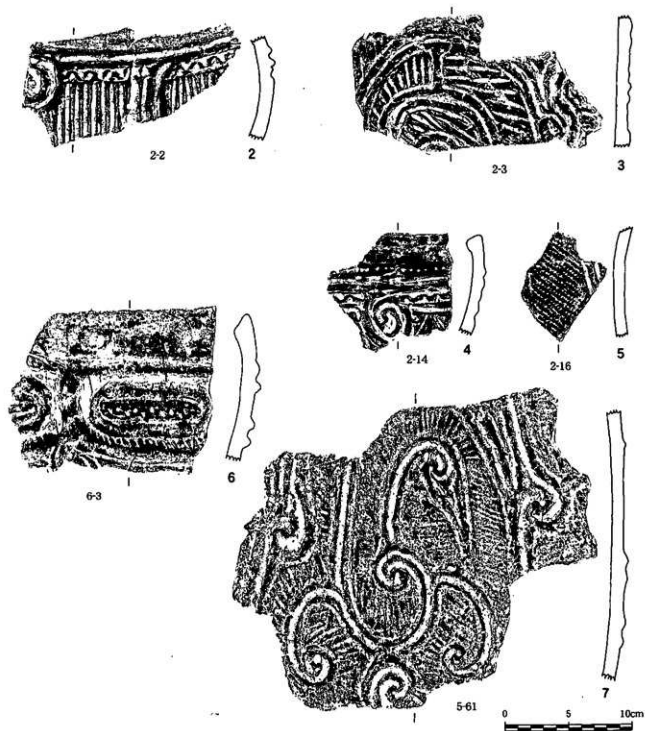
第8図 第2号住居址実測図



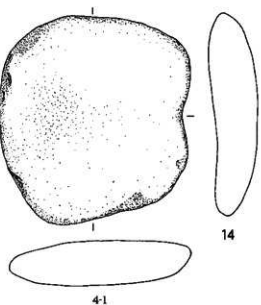
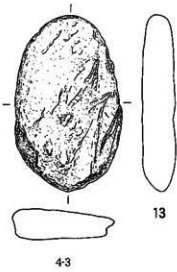
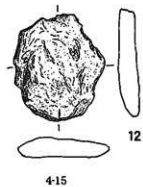
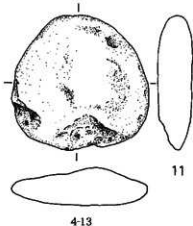
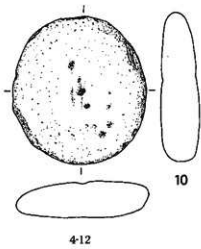
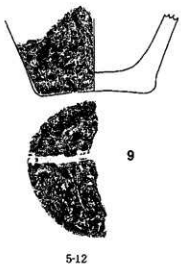
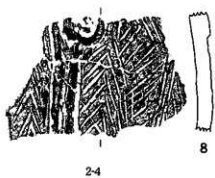
第9図 第2号住居址遺物分布図



第10図 第2号住居址遺物実測図



第11图 第2号住居址遗物拓影实测图



第12圖 第2号住居址遺物実測圖

第3号住居址 (第13~14図)

本址は、本遺構調査区のI-3~4にかけて発見された住居址である。この住居址も以前の水田造営中に、すでに破壊されており、詳細な範囲は確認できず、位置と遺物にとどまってしまった。規模は東西5m、南北5m程と考えられる。

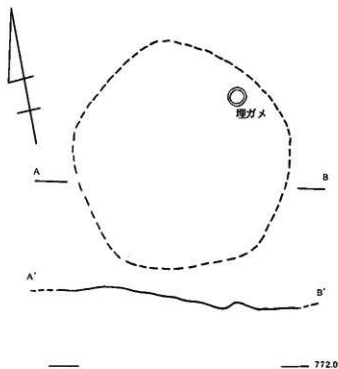
遺物 (第15~16図・図版7下)

土器

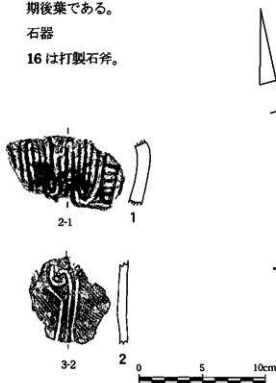
1は沈線の楕円文の土器。2は斜縄文に渦巻文。3は平行沈線文。4は渦巻き文に対し、放射状に沈線文が描かれている。5は粘土紐貼付けと押引文、平行沈線文。6は口縁部。隆起線文に渦巻文。7は隆起線文の蛇行文。8はU字の隆起線文に押引文。9は平行沈線文に隆起線文。10は押引文。11は平行沈線文。12は刺突文。13は隆起線文。14は平行沈線文。15は深鉢形土器の口縁部。隆起線文と沈線の唐草文と押引文が見られる。1~15の時代は全て縄文中期後葉である。

石器

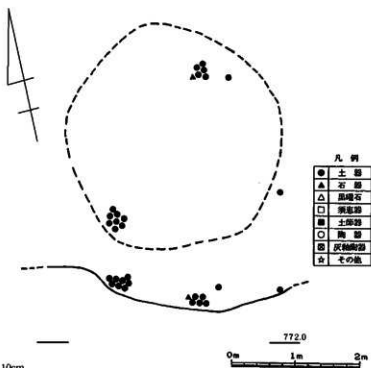
16は打製石斧。



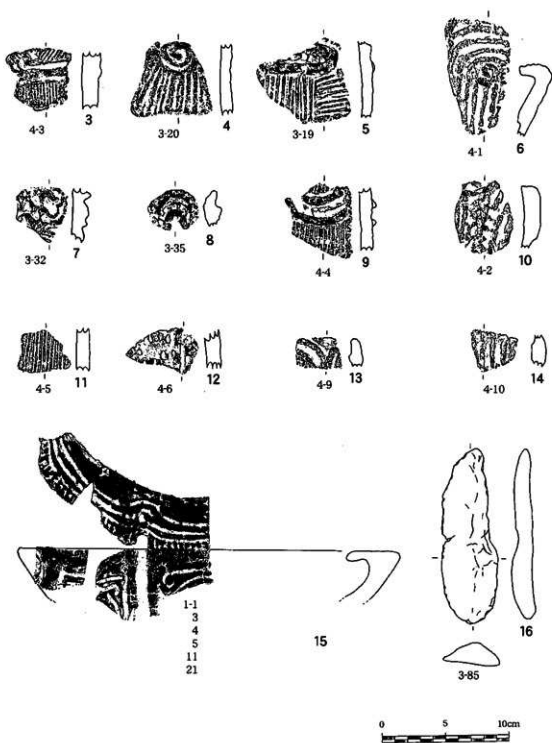
第13図 第3号住居址実測図



第15図 第3号住居址遺物実測図



第14図 第3号住居址遺物分布図



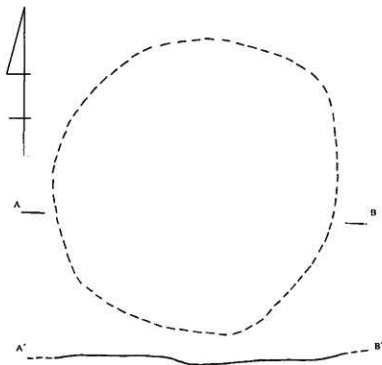
第16图 第3号住居址遗物实测图

第4号住居址 (第17~18図・図版2上)

本址は、遺跡調査区のH-4であり、溝状遺構の北側に接して発見された遺構である。この遺構も水田造成の際に造られたもので、規模については推定であるが、径が7m内外と考えられる。

遺物 (第19図・図版8上)

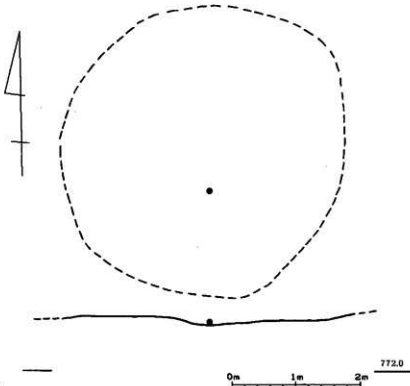
1は地文が斜縄文、縦の文様が撚糸文の縄文中期後葉の土器。



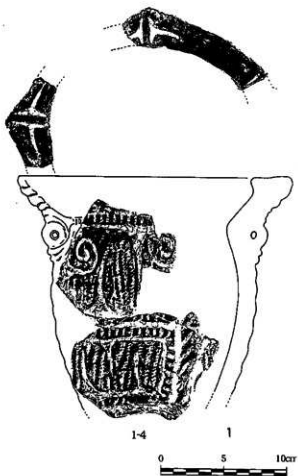
第17図 第4号住居址実測図

凡例

● 土器	▲ 石器	△ 瓦礫石	○ 須臾野
■ 土塚跡	□ 溝跡	▣ 灰物陶器	◇ その他



第18図 第4号住居址遺物分布図



第19図 第4号住居址遺物実測図

第5号住居址 (第20~21図・図版2下)

本址は、堀遺跡の調査区H-5区に発見された遺構である。本遺構も、出土遺物が主体で、後はほとんど水田造成の折りに破壊されてしまっていた。そのため、遺構の決め手がない所までに至った。規模はおおよそ南北4m、東西4.5mと考えられる。

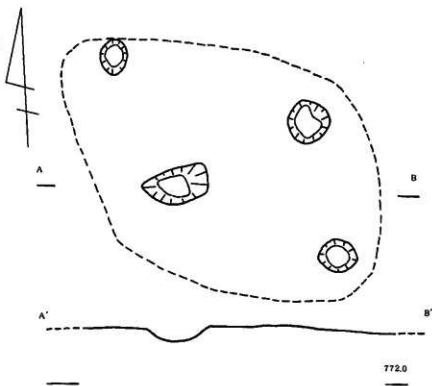
遺物 (第22図・図版8下)

土器

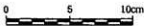
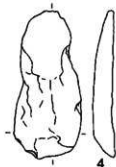
1は、口縁部土器。2は、隆起線文が見られる。3は、斜縄文。時代は1~3まで、全て縄文中期後葉である。

石器

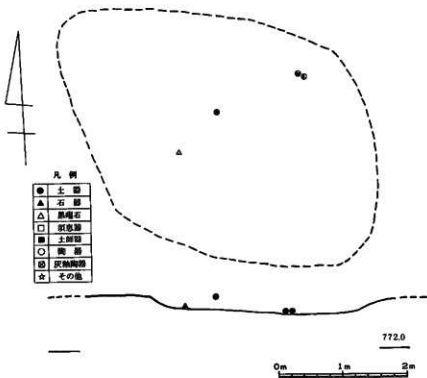
4は、硬砂岩の打製石斧。



第20図 第5号住居址実測図



第22図 第5号住居址遺物実測図



第21図 第5号住居址遺物分布図

第6号住居址 (第23~24図・図版3上)

本址は、遺構調査区H-6区に発見された遺構である。この遺構も、焼土のみが遺構の主体となった。この遺構の主体部付近の柱穴らしき穴々を目当てに住居址として見た。従って、規模は一般的な住居と同じであると思われる。南北4m東西4m。

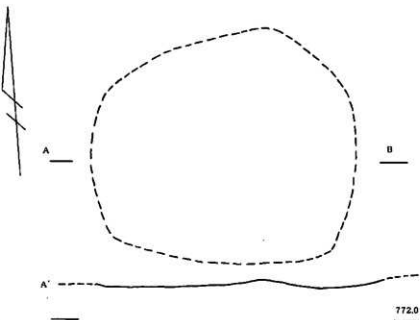
遺物 (第25図・図版9上)

土器

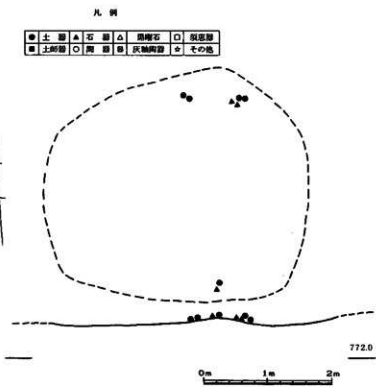
1は、深鉢形土器の頸部。平行沈線が見られる。2は、深鉢形土器。Π字の隆起線文が見られる。3は、深鉢形土器。Π字の隆起線文が見られる。4は、深鉢形土器。粘土紐を相互に貼付けた土器。5は、深鉢形土器。平行沈線と隆起線文の土器。1~5まで時代はいずれも縄文中期後葉である。

石器

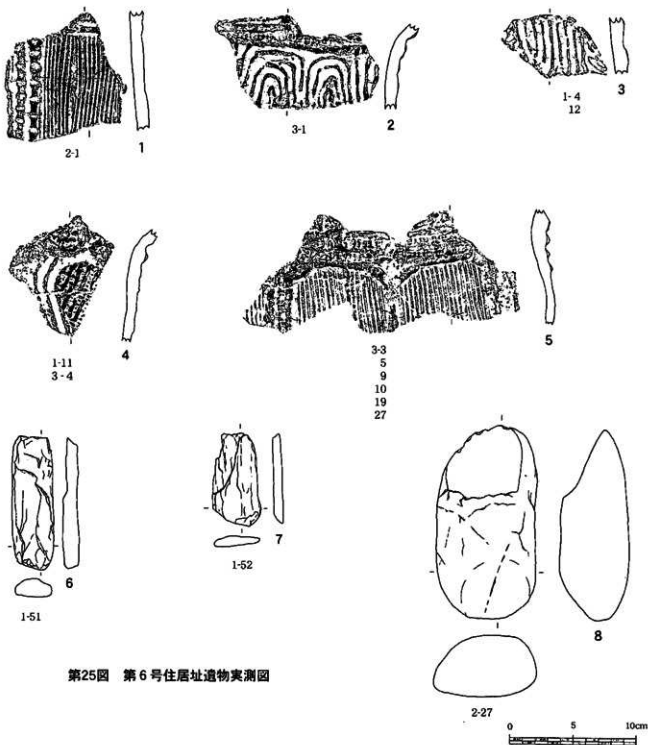
6は緑色岩、打製石斧。7も緑色岩、打製石斧。8は、硬砂岩の敲石。



第23図 第6号住居址実測図



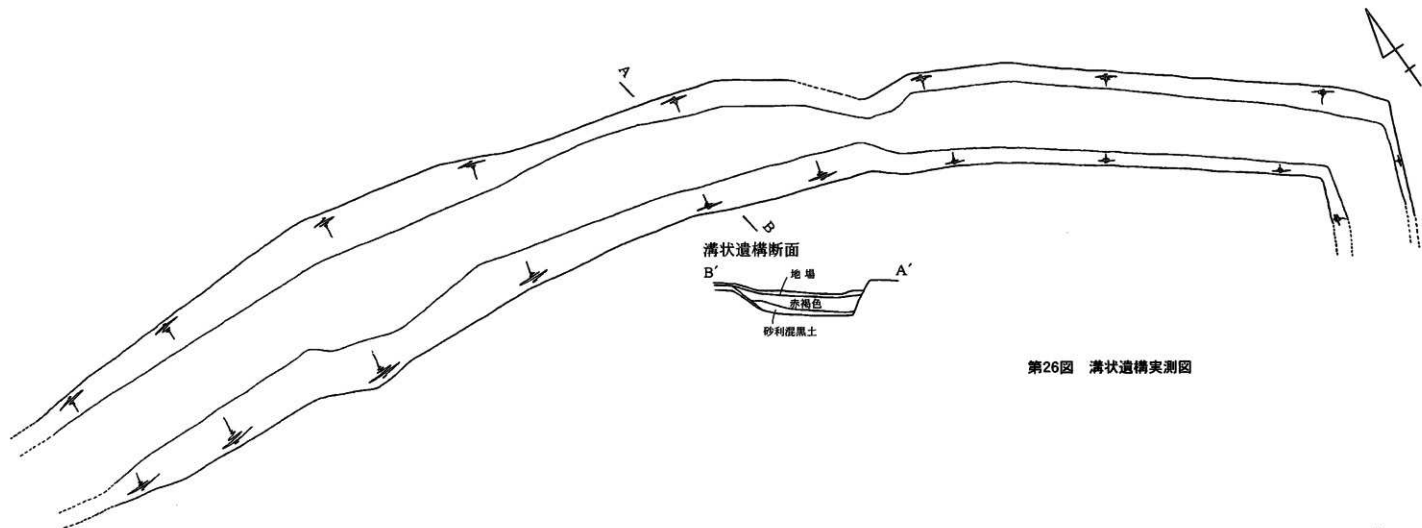
第24図 第6号住居址遺物分布図



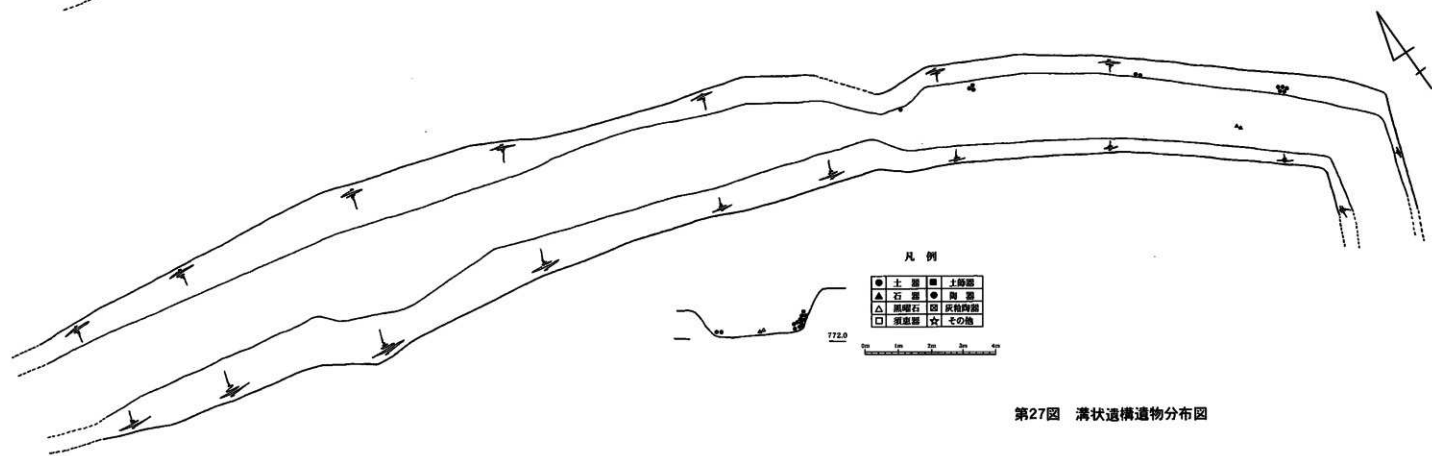
第25図 第6号住居址遺物実測図

溝状遺構 (第26~27図・図版3下)

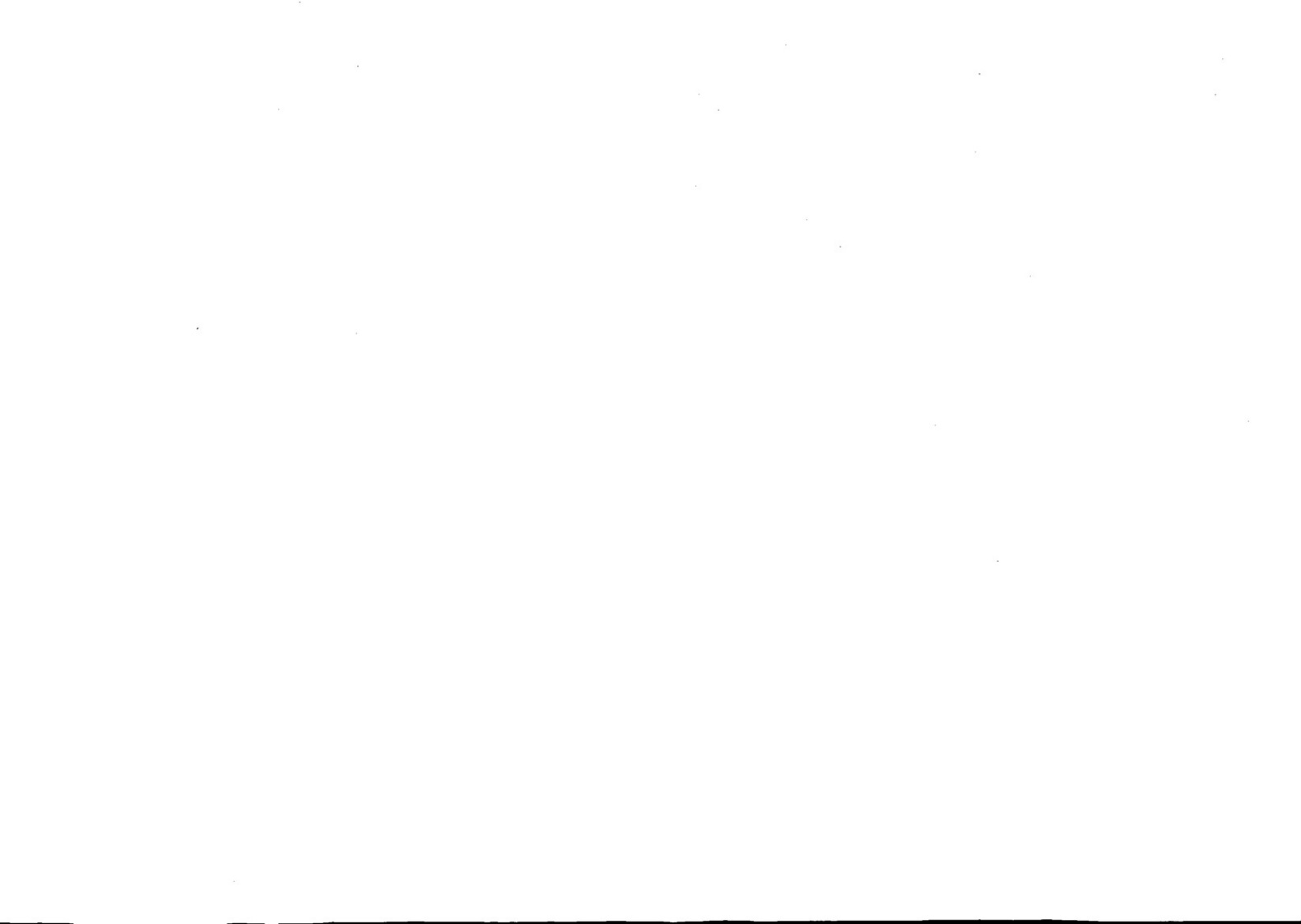
本溝状遺構は、H~Jの2~5にかけて発見された遺構で、本遺跡の主要な遺構となった。全長約46mに渡る遺構で、西から東へ約43m続いた後に南へ3m屈折している。上部が削られているため、正確な深さを知ることはできないが、現状で深さ1.4m、幅約3mである。今回の発掘では全容こそは明らかにできなかったものの、溝状遺構の存在が確認できたことは、掘遺跡を知る上で重要なものとなった。本遺構の時代を決定する決め手となるものが確認できなかったため時期を断定するまでには到らなかったが、本遺構の規模から、平安時代以降のものであると推定される。出土遺物は全て縄文時代のものであるが、これは溝が埋まる段階か水田造成の際に付近の土が混入したためと考えられる。



第26図 溝状遺構実測図



第27図 溝状遺構遺物分布図



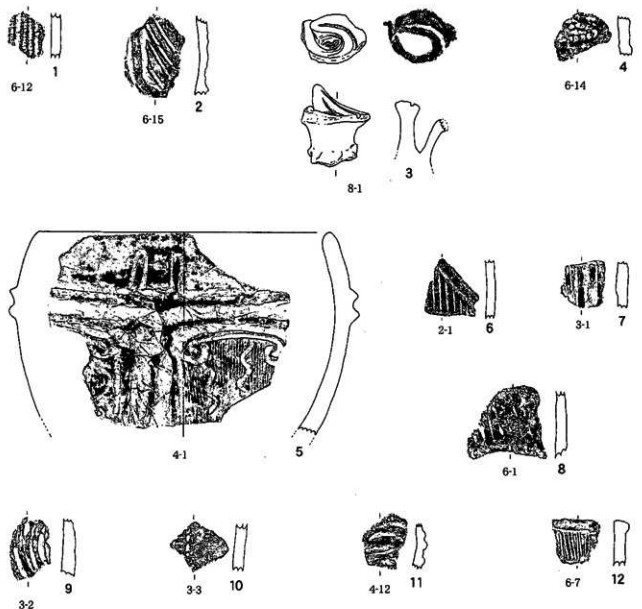
遺物 (第28~29図・図版9下)

土器

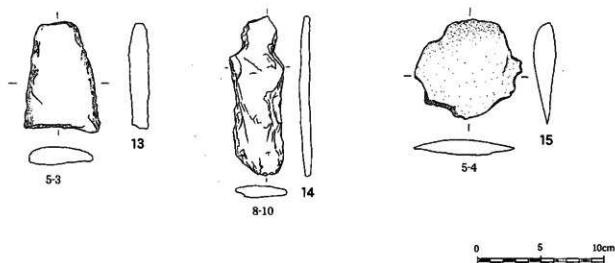
1は斜縄文の深鉢形土器で、縄文中期後葉。2は唐草文の一部か。3は深鉢形土器の把手。4は押引文。5は深鉢形土器の口縁部から頸部にかけてのもの。口縁部に隆起線文があり、頸部から胴部にかけて平行沈線文に沈線蛇行文や渦巻文が続く。6は平行沈線文。7は縦の隆起線文と平行沈線文。8は押引文。9はゆるくカーブになっている沈線文。10は平行沈線文。11は隆起線による蛇行文。12は平行沈線文。1~12まで時代は全て縄文中期後葉である。

石器

13は緑色岩の打製石斧。14は縦型の石匙。15は横刃型石器。



第28図 溝状遺構遺物実測図



第29図 溝状遺構遺物石器実測図

第1号址 (第30~31図・図版4上)

本址は調査区のI-6・7区に発見された遺構である。トレンチ調査の折に発見されたのは、石皿と叩き石であり、その後の本発掘時には、未使用の石囲炉が発見された。炉址が未使用であることなどから、住居址とするには到らなかったが、何らかの生活の址であると考え、1号址とした。本址の大きさは、南北5m、東西が5.8mである。

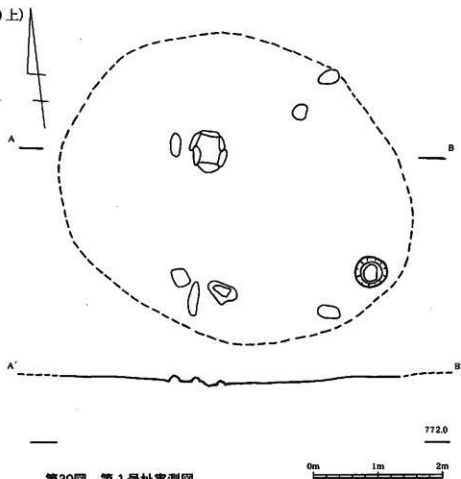
遺物 (第32~33図・図版10上)

土器

1は深鉢形土器、口縁部の横径に指痕。平出皿類A系か。2は深鉢形の口縁部三角の爪形文。3は平行隆線に連続爪形文。4は3と同じ文様。5は土器の把手であり、珍しいものである。6・7・8は斜縄文。9は平行沈線文。10は平行沈線文にカーブのかかった隆線文が見える。

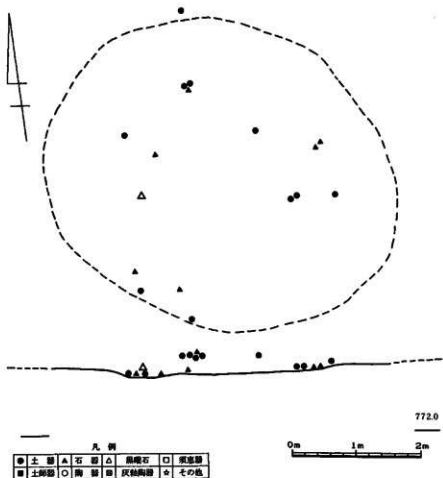
石器

11は硬砂岩打製石斧。

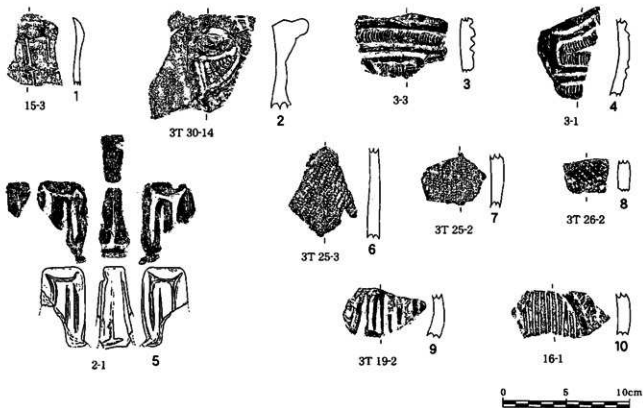


第30図 第1号址実測図

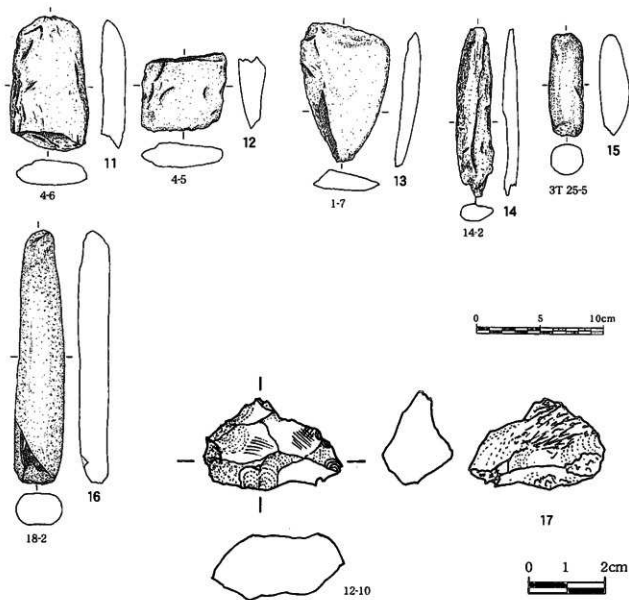
12も同様。13は横刃型石器。14は打製石器。15は上下が欠けている石器。16は緑色岩の石棒。17は黒曜石。18は水成岩の石棒で、縦45cm、横17cm、厚さ15cm。
 (挿図なし、図版のみ)
 19は石皿は縦47cm、横30cm、厚さ8cmの花崗岩。(挿図なし、図版のみ)



第31図 第1号址遺物分布図



第32図 第1号址遺物実測図



第33図 第1号址遺物石器実測図

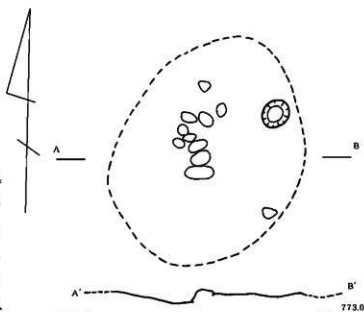
第2号址 (第34~35図・図版4下)

本址は、調査区I~J-6にかけて発見された灰釉陶器の集積である。狭い範囲から8点の灰釉陶器と同様の陶器片が14点、さらに1点の土師器がほぼ完全な形で出土し、付近に少量ではあるが、焼土を確認することができた。しかしながら、建物址等、住居址と断定できるような遺構が確認できなかったことから、住居址とするまでには至らなかった。出土した灰釉陶器から、本址の時代は10世紀後半から11世紀初頭とする。本址の範囲は東西3m、南北4mである。

遺物

平安期遺物 (第36図・口絵2~3)

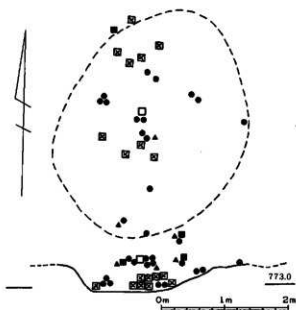
1は土師器の坏。一部分のみの出土であったため、正確な数値を出すことは難しいが、口径15cm内外、器高4.3cm、底部径6.5cm内外で、ろくろ整形である。2は灰釉の碗で、付高台。口径15.5cm、器高6.6cm、高台径7.5cm、高台の高さが1.2cmである。回転糸切痕は中央より外側によっており、高台の外表面は外傾している、口縁部は外反しており、腰部から胴部にかけて丸みをもったはりがある。胎土は褐色であり、釉薬は腰部近くまで漬けがけをしたあと、さらに口縁部には2重に漬けがけをしたあとが認められる。3は灰釉の碗で、付高台。口径15.5cm、器高6.5cm、高台径6.9cm、高台の高さは1.0cmである。口縁部はやや外反しており、胴部に張りがある。腰部から胴部にかけてはヘラ削り調整がみられる。ろくろ整形で、糸切痕は中央に見られる。また、整形時に内側につく指痕を擦り消した形跡が見られる。釉薬は薄く漬けがけしてある。4は灰釉の碗で、付高台。口径14.3cm、器高5.8cm、高台径7.3cmである。高台の高さは1.0cmである。回転糸切痕は中央より外側によっており、高台の外表面はほぼ垂直である。腰部から胴部にかけては、ヘラ削り調整が見られる。口縁部は反りがほとんどなく、丸く成形されている。腰部にはりがあり、釉薬は薄く口縁部内外に漬けがけしてある。5は灰釉の碗で、付高台。口径14.8cm、器高5.8cm、高台径6.6cm、高台の高さは1.0cmである。口縁部はやや外反しており、腰部にはりがある。底部は回転糸切痕を消してあり、高台も外表面はほぼ垂直である。釉薬はかかりが薄く、口縁部内外に腰部近くまで漬けがけをしてある。6は灰釉の碗で、付高台。口径12.9



第34図 第2号址実測図

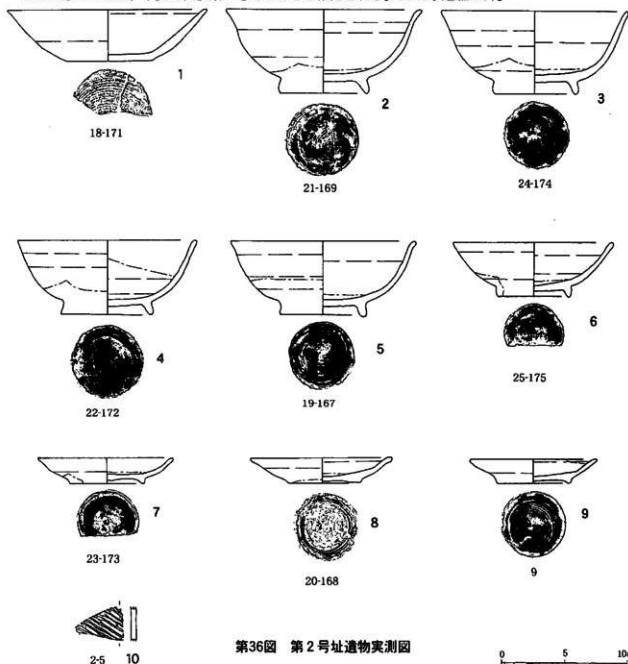
凡例

● 土器	▲ 石	△ 黒曜石	□ 須臾器
■ 土師器	○ 陶器	◇ 灰釉陶器	☆ その他



第35図 第2号址遺物分布図

cm、器高4.1cm、高台径が5.8cm、高台の高さが0.7cmである。ロクロ整形によるもので、回転糸切痕は中央より外側によっている。内側には重ね焼の際についたと見られる痕が残っている。軸葉は漬けがけで、口縁部内外に薄くかけてある。7は灰軸の段皿で、付高台。口径10.8cm、器高2.0cm、高台径6.0cm、高台の高さは0.4cmである。ロクロ整形によるもので、糸切痕は中央にある。軸葉は漬けがけで、胎土は褐色である。8は灰軸の段皿で、付高台。口径11.3cm、器高2.0cm、高台径5.8cm、高台の高さは0.3cmである。回転糸切痕は中心にあるが、すり消したようなあとが認められる。縁帯の幅は1.9cmである。外面について、底部付近はややふくらみをもつが、中段から口縁部にかけては直に外傾している。胎土は褐色であり、その上に軸葉が口縁部内外に2重に漬けがけをしてある。9は灰軸の段皿で、付高台。口径10.2cm、器高1.9cm、高台径6.0cm、高台の高さは0.3cmである。ロクロ成形によるもので、回転糸切痕は中心より外側によっている。縁帯の幅は1.6cmである。1～9は全て東濃産のものであり、1～2点を除き、全てが丸石2号窯のものである。3と6については虎渓山1号窯に分類されると思われるが、はっきりと断定することはできなかった。年代はいずれも10世紀後半から11世紀初頭にかけてのものであり、平安時代後期のものであると推定される。10は須恵器の片。



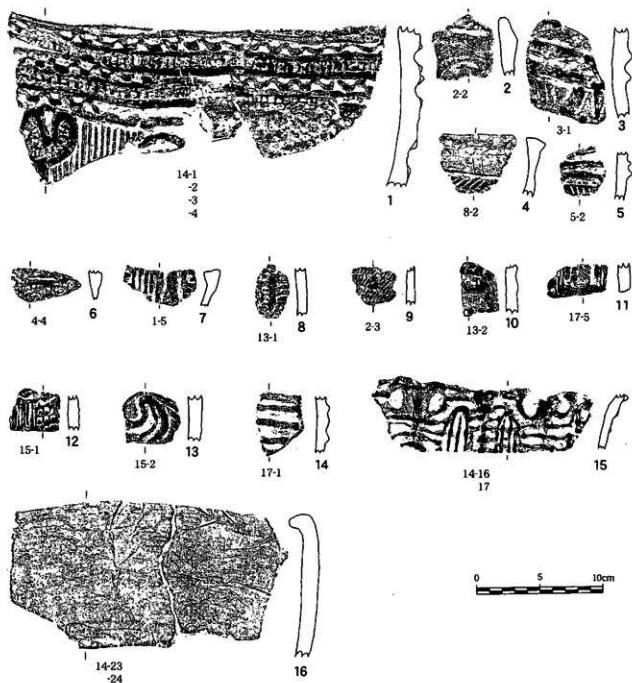
第36図 第2号址遺物実測図

土器

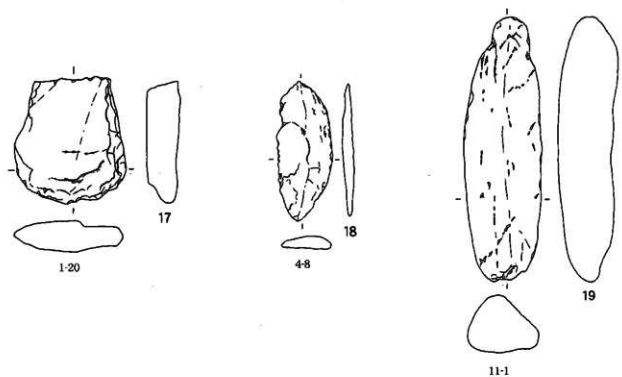
1 は深鉢形土器で曾利Ⅱ式土器。隆起線文による連続蛇行文と平行沈線文。時代は縄文中期後葉。2 は沈線蛇行文。縄文中期中葉のもの。3 は深鉢形土器。横方向に隆起線文が見られる。4 は口縁部の一部で沈線文の横文が見られる。5 は沈線文。6 は沈線文に押し文。7 は平行沈線文。8 は連続爪形文に平行沈線文。9 は斜縄文。10 は横方向の隆起線文。11 は沈線文。12 は平行沈線文に押し文。13 は隆起線文の渦巻文の一部か。14 は横方向の隆起線文。15 は深鉢形土器で、ソーメン状浮線文が見られる。16 は深鉢形土器の口縁部で、無文様である。以上 3~16 まで、時代は縄文中期後葉。

石器

17 は硬砂岩の打製石斧。18 は横刃型石器。19 は磨製石斧。



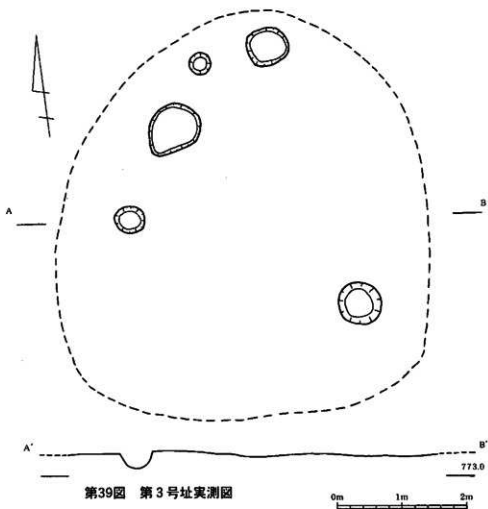
第37図 第2号址遺物実測図



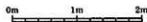
第38図 第2号址遺物石器実測図

第3号址 (第39~40図)

本址は調査区I~J-7~8にかけて発見された南北7m、東西5.5mの遺構である。須恵器の甕が伏せた状態で出土しており、これを基に何らかの生活の址であると考え、3号址とした。底部は残っておらず、水田造営の折に欠いてしまったものなのか、もともと欠いた状態で埋設してあるのかは不明である。



第39図 第3号址実測図

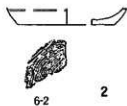


遺物 (第41~42図・図版11下)

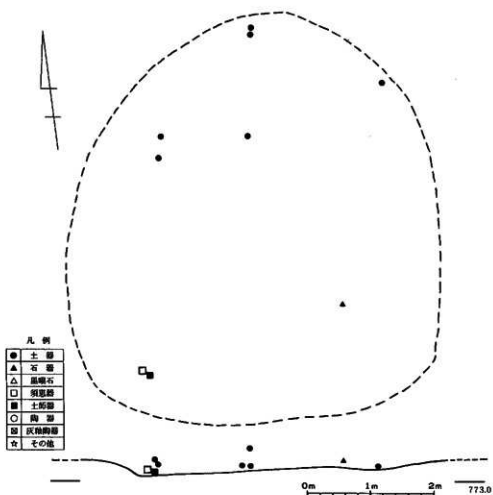
1は須恵器で、9世紀から10世紀のものである。口径は32.0cm、高さ50.5cmであり、頸部に少しくびれが見られ、ロクロで整形した痕も見られる。釉薬は口元に薄くかかっている様子が確認できる。2は土師器の坏の底部である。1の須恵器の頸内部から出土したもので、ロクロ整形のあとが見られる。時代は9世紀から10世紀のものと思われる。3は粘土紐の深鉢形土器の一片で、時代は縄文中期後葉。4は平行沈線文と隆起線文が見られる。5は刺突文の土器片。6は斜縄文のある深鉢形土器。7も斜縄文の見える土器片。8も縦横に平行沈線文様の縄文中期後葉の土器。9は敲石。

石器

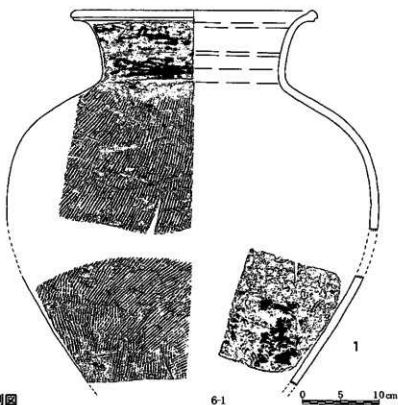
9は敲石。

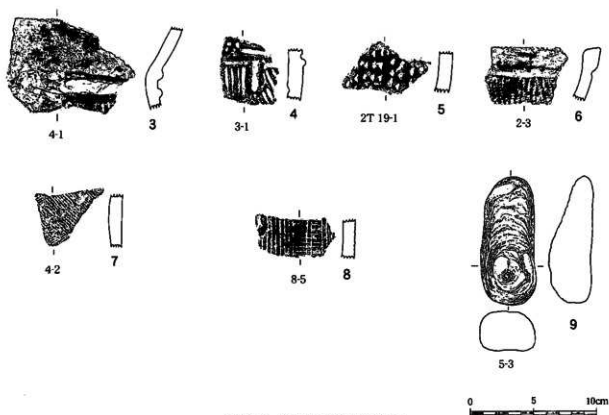


第41図 第3号址遺物実測図



第40図 第3号址遺物分布図





第42図 第3号址遺物実測図

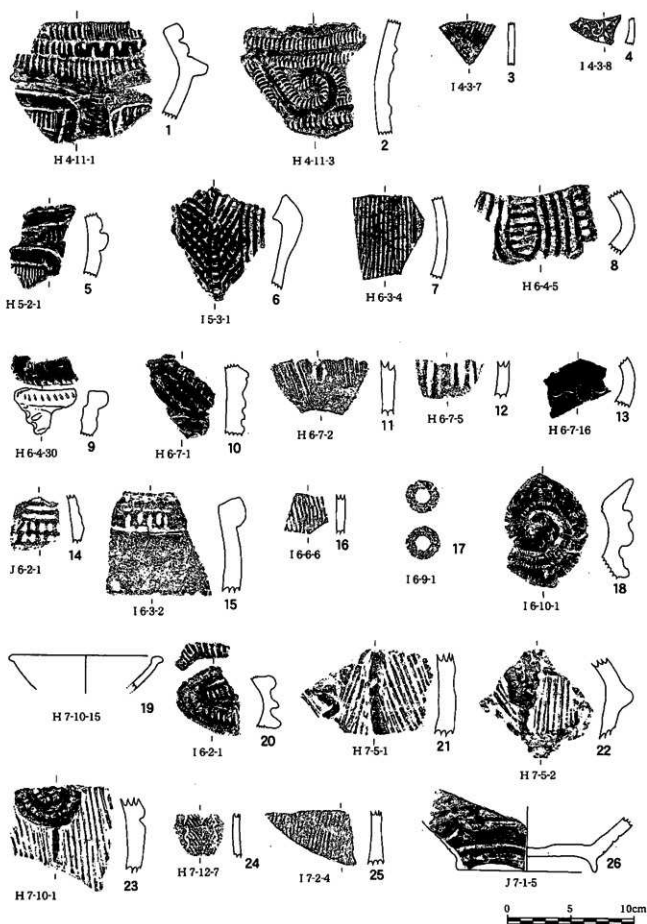
第1号竪穴（図版5下）

第1号竪穴は調査区H-4から検出された、直径160cm、底の直径110cm、深さ78cmの竪穴である。どのような性格の穴であるかは不明であり、中から遺物等も出ていないため、時期の特定は困難である。

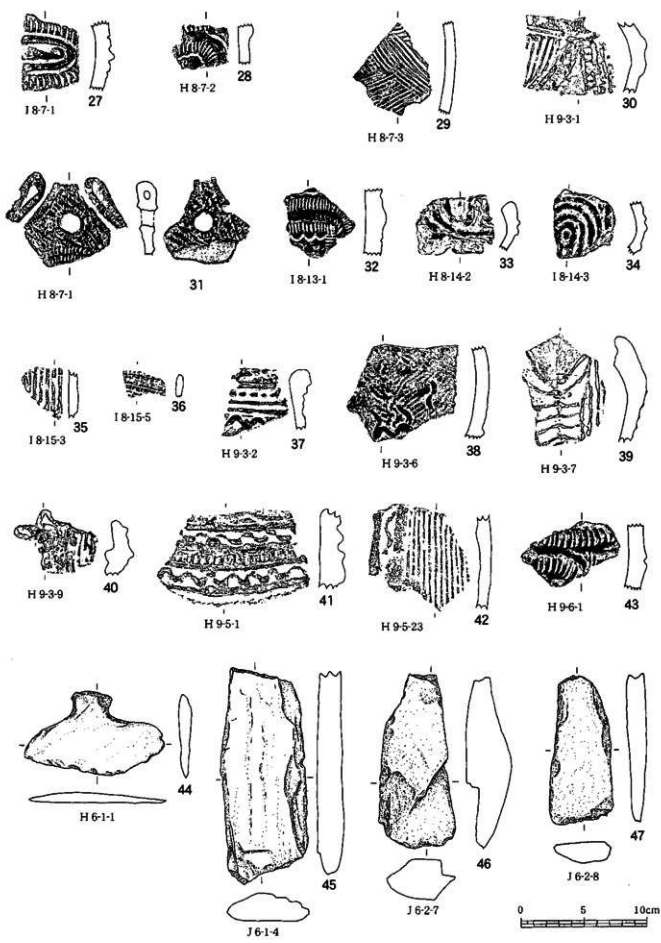
グリット・トレンチ

掘遺跡の調査は、試掘調査と本発掘調査の二度に分けて行われた。圃場整備等による埋め戻しの正確なレベルが明確でないため、遺構が存在する箇所を特定するために試掘調査を行い、その後、遺構が存在すると思われる場所の本発掘調査を行った。調査に当たって、約6600㎡の調査対象範囲に10m×10mを1区画としたメッシュを140個設定した。試掘調査では、2m幅のトレンチを0から8までの9本設定し、さらに、約4200㎡の範囲にわたって52個のグリットによる調査を行った。（第4図参照）

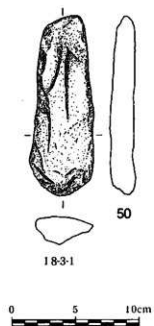
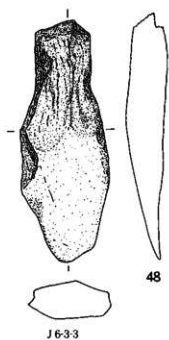
その中で、遺構の検出された2380㎡を対象に本発掘調査を行ったところ、前述のような遺構が確認された。これらの遺構以外から検出された遺物（第43～45図・図版12, 13上）については、メッシュごとにまとめてある。



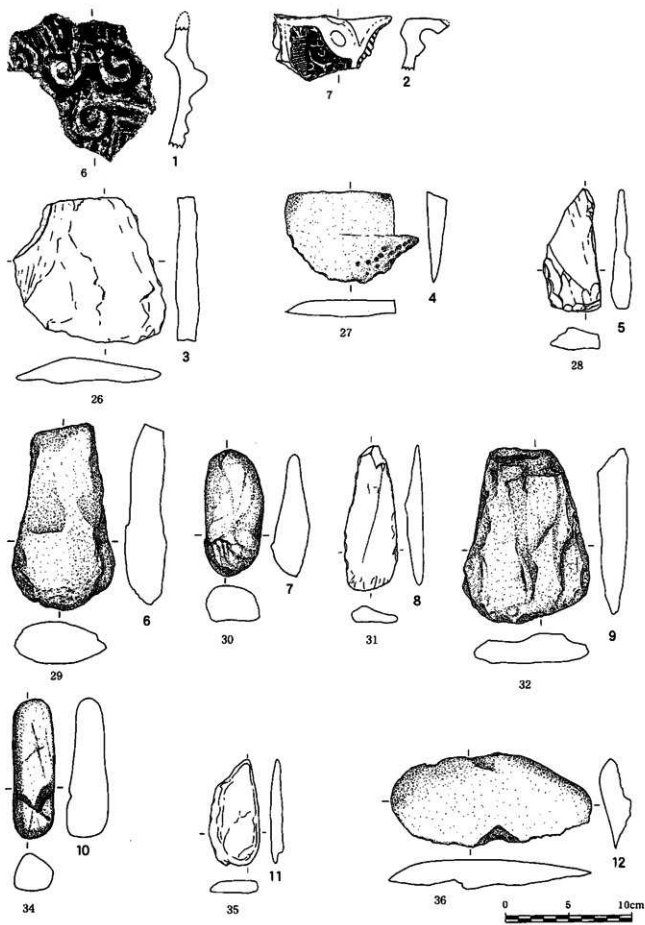
第43図 メッシュ区分け遺物実測図



第44図 メッシュ区分け遺物実測図



第45図 メッシュ区分け遺物石器実測図



第46圖 表採遺物実測圖

ま と め

勝間堀遺跡発掘調査は、社会福祉法人高遠さくら福祉会が特別養護老人ホーム「さくらの里」を建設するに伴い、文化財保護法に基づいて、埋蔵文化財の緊急発掘調査として行われたものである。調査は平成12年12月の試掘調査と、平成13年4月から5月までの本発掘調査の2度に分けて行った。その結果を要約すれば、次のとおりである。

1. 発見された遺構

竪穴式住居址	縄文中期後葉	6軒
生活址	縄文中期後葉	1址
	平安時代	2址
竪穴	縄文中期後葉	1基
溝状遺構	平安時代以降	1基

2. 出土遺物の総数は、土器・石器・陶器・鉄器等2701点である。(出土遺物一覧表)

3. 遺跡の所在は高遠町勝間地区で、北側には三峰川が流れ、高遠ダム左岸段丘中央に位置している。堀地区の後背地は集落を挟んで山地となっている。本発掘調査地の北東部では川原石や砂の堆積が確認され、遺構は全く確認されていない。これは、グリッド調査をおこなった箇所についても同様で、ここが三峰川の流路であった時期があると思われる。縄文時代以降三峰川の流路は、何度か変化していることが考えられ、それに伴い、人々の生活の場も変化していったであろうことが予想される。

4. 堀遺跡は昭和56年(1981)に調査が行われている。その折には、縄文中期の住居址、平安時代の住居址、中世初期の濠渠址等が発見されたため、その重要性から調査を途中で打ち切り、工事設計を大きく変更し、盛り土工法により遺構を保存したという経緯がある。前回調査では、濠渠址から、当地に鎌倉時代の方形居館の存在が推定されているが、今回の調査では、鎌倉時代の遺物としては、こね鉢の底部が一点(第43図・26)確認されるにとどまり、方形居館の存在そのものを決定づけるまでには到らなかった。しかしながら、前回調査で検出されている濠渠址のほか、今回新たに溝状遺構が確認されたことで、何期かに分けて堀が築かれている可能性もあり、これらが「堀」という地名の根元になっているのはほぼ間違いのないのではないかと思う。

今回の調査地は、水田及び畑として使用されていた土地であったため、遺構上面が水田等造成の際に削られてしまったと考えられ、正確な遺構を検出することができなかった。ここは古くは長芋を作っていたところでもあるので、その長芋を収穫した折、遺物が出土していたという話もお聞きしている。このような条件下で、2号址において、ほぼ完形に近い平安時代の灰釉陶器の集積が確認されたことは大変意義深いものである。しかし、付近に平安時代の住居址は認められなかったため、これらがどのような意味を持つのかは慎重に考えねばならず、詳細については今後の調査研究を待ちたい。

5. 今回の調査では、重機オペレーターの安藤さん、測量に携っていただきました保科さんには、細かい指示にも快く応じてくださり、誠にありがとうございました。遺物整理作業にあたっては、長野県埋蔵文化財センターの百瀬長秀先生、市川隆之先生、伊那市教育委員会の飯塚政美先生、その他各方面の皆さまからご指導、ご協力いただきましたことを感謝申し上げます。そして、地

元の発掘調査に参加された方々や、資料整理に携ってくださった方々の熱心な作業によって調査を無事終了し、報告書を刊行できますことを心より感謝申し上げます。

尚、本報告書は調査団長である友野良一先生が、お亡くなりになられた平成13年12月以前に作成頂きました原稿により発行するものであります。調査関係者一同、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

＜参考文献＞

高遠町誌刊行会 『高遠町誌（上巻 歴史編）』 1979

高遠町教育委員会 『町営園場整備事業用地内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
勝間一堀遺跡』 1982

高遠町教育委員会 『信州高遠史跡と文化財』 1983

大川 清・鈴木公雄・工楽善通 『日本土器辞典』 雄山閣 1997

田口 昭二 「美濃窯における白瓷と山茶碗」『美濃陶磁歴史館報Ⅱ』土岐市美濃陶磁歴史館 1983

あ と が き

今回の発掘調査並びに報告書を発刊するにあたりましては、調査団長をお勤めいただきました今亡き友野良一先生には、ご多忙な身にもかかわらず、長期間にわたって陣頭指揮をとっていただきました。また、その傍らで先生は、作業員の皆さんに進んでこうした調査の必要性や重要性について語っておられました。長年にわたり高遠町の種々の発掘調査にご尽力いただきましたことを心よりお礼申し上げご冥福をお祈りいたします。

なお、発掘調査から報告書の作成までの間に、ご多忙の中いろいろとご指導いただきました諸先生方には心よりお礼申し上げます。

今回の調査の結果で発見された遺構は、縄文中期の竪穴式住居址6箇所のほか、縄文中期・平安時代の生活址がそれぞれ確認され、この地区名「堀」の由来と重複するかと思えるような平安時代以降の溝状遺構も発見され、前回の濠渠址と考え合わせて興味深く感じます。

調査期間中積極的に発掘作業に参加いただいた皆さんや、いろいろとご協力いただきました地元勝間区の皆さん、なお測量・発掘作業に関わっていただいた重機オペレーターの皆さんに心より感謝申し上げます。

高遠町教育委員会

教育次長 伊 藤 順 一

遺構 NO.	遺物 NO.	挿図 NO.	写真 図版 NO.	器種 土器	縄文			弥生	古代				近世	その他	備考
					前期	中期	後期		土師器	須恵器	灰土	瓦			
2世	3-52			○			○								
〃	3-53			○			○								
〃	3-54			○			○								
〃	4-1	12	7	○									1-1埋め遺構		
〃	4-2			○											
〃	4-3	12	7	○											
〃	4-4			○											
〃	4-5			○											
〃	4-6			○											
〃	4-7			○											
〃	4-8			○											
〃	4-9			○											
〃	4-10			○											
〃	4-11			○											
〃	4-12	12	7	○											
〃	4-13	12	7	○											
〃	4-14			○											
〃	4-15	12	7	○											
〃	5-1			○			○								
〃	5-2			○			○								
〃	5-3			○			○								
〃	5-4			○			○								
〃	5-5			○			○								
〃	5-6			○			○								
〃	5-7			○			○								
〃	5-8			○			○								
〃	5-9			○			○								
〃	5-10			○			○								
〃	5-11			○			○								
〃	5-12	12	6	○			○								
〃	5-13			○			○								
〃	5-14			○			○								
〃	5-15			○			○								
〃	5-16			○			○								
〃	5-17			○			○								
〃	5-18			○			○								
〃	5-19			○			○								
〃	5-20			○			○								
〃	5-21			○			○								
〃	5-22			○			○								
〃	5-23			○			○								
〃	5-24			○			○								
〃	5-25			○			○								
〃	5-26			○			○								
〃	5-27			○			○								
〃	5-28			○			○								
〃	5-29			○			○								
〃	5-30			○			○								
〃	5-31			○			○								
〃	5-32			○			○								
〃	5-33			○			○								
〃	5-34			○			○								
〃	5-35			○			○								
2世	5-36			○			○								
〃	5-37			○			○								
〃	5-38			○			○								
〃	5-39			○			○								
〃	5-40			○			○								
〃	5-41			○			○								
〃	5-42			○			○								
〃	5-43			○			○								
〃	5-44			○			○								
〃	5-45			○			○								
〃	5-46			○			○								
〃	5-47			○			○								
〃	5-48			○			○								
〃	5-49			○			○								
〃	5-50			○			○								
〃	5-51			○			○								
〃	5-52			○			○								
〃	5-53			○			○								
〃	5-54			○			○								
〃	5-55			○			○								
〃	5-56			○			○								
〃	5-57			○			○								
〃	5-58			○			○								
〃	5-59			○			○								
〃	5-60			○			○								
〃	6-1	11	6	○			○								
〃	6-2			○			○								
〃	6-3	11	6	○			○								
〃	6-4			○			○								
〃	6-5			○			○								
〃	6-6			○			○								
〃	6-7			○			○								
〃	6-8			○			○								
〃	6-9			○			○								
〃	6-10			○			○								
〃	6-11			○			○								
3世	1-1	16	7	○			○								
〃	1-2			○			○								
〃	1-3	16	7	○			○								
〃	1-4	16	7	○			○								
〃	1-5	16	7	○			○								
〃	1-6			○			○								
〃	1-7			○			○								
〃	1-8			○			○								
〃	1-9			○			○								
〃	1-10			○			○								

遺構 NO.	遺物 NO.	埴 田 NO.	平口 甕 NO.	器種			縄文			弥 生	古 代	中 世	近 世	其 他	備 考
				土 器	石 器	前 期	中 期	後 期	土 師 器						
2址	14-7			○				○							
"	14-8			○				○							
"	14-9			○				○							
"	14-10			○				○							
"	14-11			○				○							
"	14-12			○				○							
"	14-13			○				○							
"	14-14			○				○							
"	14-15			○				○							
"	14-16	37	10	○				○							
"	14-17	37	10	○				○							
"	14-18			○				○							
"	14-19			○				○							
"	14-20			○				○							
"	14-21			○				○							
"	14-22			○				○							
"	14-23	37	10	○				○							
"	14-24	37	10	○				○							
"	14-25			○				○							
"	14-26			○				○							
"	14-27			○				○							
"	14-28			○				○							
"	14-29			○				○							
"	14-30			○				○							
"	14-31			○				○							
"	14-32			○				○							
"	14-33			○				○							
"	14-34			○				○							
"	14-35			○				○							
"	14-36			○				○							
"	14-37			○				○							
"	15-1	37	10	○				○							
"	15-2	37	10	○				○							
"	15-3			○				○							
"	15-4			○				○							
"	15-5			○				○							
"	15-6			○				○							
"	15-7			○				○							
"	15-8														
"	15-9														○
"	15-10														○
"	15-11														○
"	15-12														○
"	15-13														○
"	15-14														○
"	15-15														○
"	15-16														○
"	15-17														○
"	15-18														○
"	15-19														○
"	15-20														○
"	15-21														○
"	16-1			○				○							
2址	16-2														○
"	16-3														○
"	16-4														○
"	17-1	37	10	○				○							
"	17-2			○				○							
"	17-3			○				○							
"	17-4			○				○							
"	17-5	37	10	○				○							
"	17-6			○				○							
"	17-7			○				○							
"	17-8			○				○							
"	17-9			○				○							
"	17-10			○				○							
"	17-11			○				○							
"	17-12			○				○							
"	17-13			○				○							
"	17-14			○				○							
"	17-15														
"	18														○
"	19														○
"	20														○
"	21														○
"	22														○
"	23														○
"	24														○
"	25														○
"	26														○
"	27-1			○				○							
"	27-2			○				○							
"	27-3														○
"	27-4			○				○							
3址	1-1														○
"	2-1														○
"	2-2			○				○							
"	2-3	42	11	○				○							
"	3-1	42	11	○				○							
"	3-2			○				○							
"	3-3			○				○							
"	3-4			○				○							
"	4-1	42	11	○				○							
"	4-2	42	11	○				○							
"	5-1			○				○							
"	5-2														○
"	5-3	42	11					○							○
"	5-4			○				○							
"	6-1														○
"	6-2	41	11												○
"	7-1			○				○							
"	7-2			○				○							
"	7-3			○				○							
"	7-4			○				○							
"	8-1			○				○							
"	8-2			○				○							

遺構 NO	遺物 NO.	挿入 NO.	写真 NO.	器種		縄文			弥生	古代		近世	その他	備考	
				土器	石器	前期	中期	後期		土師器	須恵器				
	34	8-3			○			○							
	8-4							○							
	8-5	42	11		○			○							
	8-6				○			○							
	8-7				○			○							
	8-8				○			○							
	8-9					○									
	8-1				○			○							
	8-2							○							
	8-3				○			○							
	8-4				○			○							
	8-5				○			○							
	8-6				○			○							
	8-7				○			○							
	8-8				○			○							
	8-9				○			○							
	8-10					○									
	8-11											○	現代		
	2719-1	42	11		○			○							
	2719-3				○			○							
	2719-5				○			○							
	2719-4				○			○							
	2719-5				○			○							
	2719-6				○			○							
	2719-7				○			○							
	2720-1				○			○							
	2720-2				○			○							
G2	871-1				○			○							
	871-2				○			○							
	871-3				○			○							
	871-4				○			○							
	871-5				○			○							
	871-6				○			○							
	871-7				○			○							
	871-8				○			○							
	871-9				○			○							
	871-10				○			○							
	871-11				○			○							
	871-12				○			○							
	871-13					○									
	871-14												○	不明	
	871-15					○									
	871-16					○									
	871-17					○									
	871-18					○									
	872-1				○			○							
	872-2				○			○							
	872-3				○			○							
	872-4				○			○							
	872-5				○			○							
	872-6				○			○							
	872-7				○			○							
	872-8				○			○							
G2	872-9				○			○							
	872-10				○			○							
	872-11				○			○							
	872-12				○			○						○	不明
	872-13				○			○							
	872-14				○			○							
	872-15				○			○							
	872-16				○			○							
	872-17				○			○							
	872-18				○			○							
	872-19				○			○							
	872-20					○									
	872-21				○			○							
	873-1				○			○							
	873-2				○			○							
	873-3				○			○						?	
	873-4				○			○							
	874-1				○			○							
	874-2				○			○							
	874-3				○			○							
	874-4				○			○							
	874-5				○			○							
	875-1				○			○							
	875-2					○									
	877-1				○			○							
	877-2				○			○							
	877-3				○			○							
	877-4				○			○							
	877-5				○			○							
	877-6				○			○							
H2	878-1					○									
G3	771-1				○			○							
	771-2				○			○							
	771-3				○			○							
	771-4												○		
	772-1				○			○							
	772-2				○			○							
	772-3				○			○							
	772-4				○			○							
	772-5				○			○							
	772-6				○			○							
	772-7				○			○							
	772-8				○			○							
	772-9				○			○							
H3	773-1				○			○							
	774-1				○			○							
	778-1				○			○							
	778-2				○			○							
	778-3				○			○							
	778-4				○			○							
	778-5				○			○							
	778-6				○			○							
	778-7				○			○							

遺構 NO.	遺物 NO.	埴 目 NO.	器 種 NO.	縄文			弥 生	古 土 師	代 灰 輪	中 世	近 世	其 他	備 考
				前 期	中 期	後 期							
H3	770-8		○			○							
#	770-8		○			○							
#	778-10			○									
#	1-1					○							
#	1-2		○			○							
#	1-3		○			○							
#	1-4		○			○							
#	1-5		○			○							
#	1-6		○			○							
#	1-7		○			○							
#	1-8		○			○							
#	1-9		○			○							
#	1-10		○			○							
#	1-11		○			○							
#	1-12		○			○							
#	1-13		○			○							
#	1-14		○			○							
#	1-15		○			○							
#	1-16		○			○							
#	1-17		○			○							
#	1-18		○			○							
#	1-19		○			○							
#	1-20		○			○							
#	1-21		○			○							
#	1-22		○			○							
#	1-23		○			○							
#	2-1		○			○							
#	2-2		○			○							
#	2-3		○			○							
#	2-4		○			○							
#	2-5		○			○							
#	2-6		○			○							
#	3-1		○			○							
#	3-2		○			○							
#	3-3		○			○							
#	3-4		○			○							
#	3-5		○			○							
#	3-6		○			○							
#	3-7		○			○							
#	4-1		○			○							
#	4-2		○			○							
#	4-3		○			○							
#	4-4		○			○							
#	4-5		○			○							
#	4-6		○			○							
#	5-1		○			○							
#	5-2		○			○							
#	5-3		○			○							
#	5-4		○			○							
#	5-5		○			○							
#	5-6		○			○							
#	5-7		○			○							
#	5-8		○			○							
H3	5-9		○			○							
#	5-10		○			○							
#	6-1		○			○							
#	6-2		○			○							
#	6-3		○			○							
#	6-4		○			○							
#	6-5		○			○							
#	6-6		○			○							
#	6-7		○			○							
#	6-8		○			○							
#	6-9		○			○							
#	6-10		○			○							
#	6-11		○			○							
#	6-12		○			○							
#	6-13		○			○							
#	6-14		○			○							
#	6-15		○			○							
#	6-16		○			○							
#	6-17		○			○							
#	6-18		○			○							
#	6-19		○			○							
#	6-20		○			○							
#	6-21		○			○							
#	6-22		○			○							
#	6-23		○			○							
#	6-24		○			○							
#	6-25		○			○							
#	6-26		○			○							
#	2-1					○							
#	2-2		○			○							
#	2-3		○			○							
#	2-4		○			○							
#	2-5		○			○							
#	2-6		○			○							
#	2-7		○			○							
#	2-8		○			○							
#	2-9		○			○							
#	2-10		○			○							
#	2-11		○			○							
#	2-12		○			○							
#	2-13		○			○							
#	2-14		○			○							
#	2-15		○			○							
#	2-16		○			○							
#	2-17		○			○							
#	2-18					○							
#	2-19					○							横刃
#	2-20					○							
#	3-1					○							
#	3-2					○							
#	6-1					○							
#	7-1		○			○							
#	7-2		○			○							

遺構 NO.	遺物 NO.	埴 目 NO.	器種			縄文			弥 生	古 土 師 器	代 灰 釉	中 世	近 世	其 他	備 考
			土 器	石 器	前 期	中 期	後 期								
#4	0-5		○				○								
#	0-6		○				○								
#	0-7		○				○								
#	0-8		○				○								
#	0-9		○				○								
#	0-10		○				○								
#	0-11		○				○								
#	0-12		○				○								
#	0-13		○				○								
#	0-14		○				○								
#	0-15		○				○								
#	0-16		○				○								
#	0-17		○				○								
#	0-18		○				○								
#	0-19		○				○								
#	0-20		○				○								
#	0-21		○				○								
#	0-22		○				○								
#	0-23		○				○								
#	0-24			○											
#	0-25			○											
#	7-1		○				○								
#	7-2		○				○								
#	7-3		○				○								
#	7-4		○				○								
#	7-5		○				○								
#	7-6		○				○								
#	7-7		○				○								
#	7-8		○				○								
#	7-9		○				○								
#	7-10		○				○								
#	7-11		○				○								
#	7-12		○				○								
#	7-13		○				○								
#	7-14		○				○								
#	7-15		○				○								
#	7-16		○				○								
#	8-1												○	隠代	
#	8-2												○	#	
#	8-3												○	#	
#	8-4												○	#	
#	8-5												○	#	
#	8-6												○	#	
#	8-7		○				○								
#	9-1		○				○								
#	9-2		○				○								
#	9-3		○				○								
#	9-4		○				○								
#	9-5		○				○								
#	9-6		○				○								
#	9-7		○				○								
#	9-8		○				○								
#	9-9		○				○								
#4	9-10		○				○								
#	9-11		○				○								
#	9-12		○				○								
#	9-13		○				○								
#	9-14		○				○								
#	9-15		○				○								
#	9-16		○				○								
#	9-17		○				○								
#	9-18		○				○								
#	9-19		○				○								
#	9-20		○				○								
#	9-21		○				○								
#	9-22			○											黒曜石
#	10-1		○				○								
#	10-2		○				○								
#	10-3		○				○								
#	10-4		○				○								
#	10-5		○				○								
#	10-6		○				○								
#	10-7		○				○								
#	10-8		○				○								
#	10-9		○				○								
#	10-10		○				○								
#	10-11		○				○								
#	10-12		○				○								
#	10-13		○				○								
#	10-14		○				○								
#	10-15		○				○								
#	10-16		○				○								
#	10-17		○				○								
#	10-18		○				○								
#	10-19		○				○								
#	10-20		○				○								
#	10-21		○				○								
#	10-22		○				○								
#	10-23		○				○								
#	10-24		○				○								
#	10-25		○				○								
#	10-26		○				○								
#	10-27		○				○								
#	10-28		○				○								
#	10-29		○				○								
#	10-30		○				○								
#	10-31		○				○								
#	10-32		○				○								
#	10-33		○				○								
#	10-34		○				○								
#	10-35		○				○								
#	10-36		○				○								
#	10-37		○				○								
#	10-38		○				○								
#	10-39		○				○								
#	10-40		○				○								

遺構 NO.	遺物 NO.	坪瓦 NO.	器種			縄文			古代		近世	その他	備考	遺構 NO.	遺物 NO.	坪瓦 NO.	器種			縄文			古代		近世	その他	備考		
			土器	石器	前期	中期	後期	弥生	須恵器	灰釉							土器	石器	前期	中期	後期	弥生	須恵器	灰釉					
H5	1-7		○					○						G6	1-14		○												
#	1-8							○						#	1-15		○												
#	1-9		○											#	1-16														
#	1-10		○											H6	472-1		○												
#	1-11		○											#	472-2		○												
#	1-12		○											#	472-3		○												
#	1-13		○											#	472-4		○												
#	1-14		○											#	472-5		○												
#	1-15		○											#	472-6		○												
#	2-1	43	12	○			○							#	472-7		○												
#	2-2			○				○						#	472-8		○												
#	2-3			○				○						#	472-9		○												
#	2-4			○				○						#	472-10		○												
#	2-5			○				○						#	473-11		○												
#	2-6			○				○						#	473-12		○												
#	2-7			○				○						#	473-13		○												
#	3-1			○				○						#	473-14		○												
#	3-2			○				○						#	473-15		○												
#	3-3			○				○						#	473-16		○												
H	1-1			○										#	473-17		○												
#	2-1			○										#	473-18		○												
#	2-2			○										#	473-19		○												
#	2-3			○										#	473-20		○												
#	2-4			○										#	473-21		○												
#	2-5			○										#	473-22		○												
#	2-6			○										#	473-23		○												
#	2-7			○										#	473-24		○												
#	2-8			○										#	473-25		○												
#	2-9			○										#	473-26		○												
#	2-10			○										#	473-27		○												
#	2-11			○										#	473-28		○												
#	2-12			○										#	473-29		○												
#	2-13			○										#	473-30		○												
#	3-1	43	12	○										#	474-1		○												
#	3-2			○										#	474-2		○												
#	3-3			○										#	474-3		○												
#	3-4			○										#	1-1	44	13	○										徳野石巻	
#	3-5			○										#	2-1		○											明巻石	
#	3-6			○										#	3-1		○												
#	3-7			○										#	3-2													徳島甲斐	
G6	1-1			○										#	3-3													#	
#	1-2			○										#	3-4	43	12												
#	1-3			○										#	3-5			○											
#	1-4			○										#	3-6			○											
#	1-5			○										#	3-7			○											
#	1-6			○										#	3-8			○											
#	1-7			○										#	3-9			○											
#	1-8			○										#	4-1			○											
#	1-9			○										#	4-2			○											
#	1-10			○										#	4-3			○											
#	1-11			○										#	4-4			○											
#	1-12			○										#	4-5	43	12	○											
#	1-13			○										#	4-6			○											

NO.19

遺構 NO	遺物 NO	構 NO	瓦葺 NO	器種 土器	縄文			弥生	古代			近世	その他	備考		
					前期	中期	後期		土師器	須恵器	灰胎					
#7	3T16-1			○			○									
#	3T17-1			○			○									
#	3T17-2			○			○									
#	3T17-3			○			○									
#	3T17-4							○								
#	3T17-5			○			○									
#	3T17-6			○			○									打撃石序
#	3T21-1			○			○									
#	3T22-1			○												
#	3T23-1			○			○									
#	3T23-2			○			○									
#	3T23-3			○			○									
#	1-1												○ 現代			
#	1-2												○ 現代			
#	2-1			○			○									
#	2-2			○			○									
#	2-3			○			○									
#	2-4			○			○									
#	2-5			○			○									
#	2-6				○											
#	2-7															
#	2-8			○												
#	2-9			○												
#	3-1			○			○									
#	3-2			○												
#	4-1			○												
#	5-1	43	12	○			○									
#	5-2	43	12	○			○									
#	5-3			○			○									
#	5-4			○			○									
#	5-5			○			○									
#	5-6			○			○									
#	5-7			○			○									
#	5-8			○			○									
#	5-9			○			○									
#	5-10			○			○									
#	5-11			○			○									
#	5-13			○												横刃
#	5-14			○												
#	5-15			○												
#	5-16			○												
#	6-1			○			○									
#	6-2			○			○									
#	7-1			○			○									
#	7-2			○			○									
#	7-3			○			○									
#	7-4			○			○									
#	7-5			○												打撃石序
#	7-6			○												#
#	7-7			○												現代?
#	7-8			○												#
#	7-9			○												#
#	7-10			○												#

遺構 NO.	遺物 NO.	構 NO.	平瓦 NO.	器 土器	縄文			弥生	古 代 土 器	灰 土 器	中 世	近 世	其 他	備 考	遺構 NO.	遺物 NO.	構 NO.	平瓦 NO.	器 土器	縄文			弥生	古 代 土 器	灰 土 器	中 世	近 世	其 他	備 考	
					前 期	中 期	後 期													前 期	中 期	後 期								
H7	26-4			○			○							年代?	17	4-2			○										行敷石岸	
"	26-5			○			○							"	"	4-3			○											
"	26-6			○			○							"	"	5-1			○											
"	26-7			○			○							"	"	5-2			○											
"	26-8			○			○							"	"	5-3			○											
"	26-9													"	"	5-4			○											
"	26-10			○										"	"	5-5			○											
"	27-1			○			○							"	"	5-6			○											
"	27-2			○			○							"	"	5-7			○											
"	27-3			○			○							"	"	6-1			○											
"	27-4			○			○							"	"	6-2			○											
"	28-1			○			○							"	"	6-3			○											
"	28-2			○			○							"	"	6-4			○											
"	28-3			○			○							"	"	7-1			○											年代?
"	28-4			○			○							"	"	7-2			○											"
"	29-1			○		○								年代?	"	7-3			○											"
"	29-2			○			○							"	"	7-4			○											
"	29-3			○			○							"	"	8-1			○											
"	29-4			○			○							"	"	8-2			○											
"	29-5			○			○							"	"	8-3			○											
"	29-6			○			○							"	"	9-1			○											
"	29-7			○			○							"	"	9-2			○											
"	29-8			○			○							"	"	9-3			○											
"	29-9			○			○							"	"	9-4			○											
"	30-1			○			○							"	"	10-1			○											
"	30-2			○			○							"	"	10-2			○											
"	30-3			○			○							"	"	10-3			○											
"	30-4			○			○							"	"	10-4			○											
"	30-5			○			○							"	"	11-1			○											
"	30-6			○			○							"	"	11-2			○											
"	30-7			○			○							"	"	12-1			○											
"	30-8			○			○							"	"	12-1			○			○								年代?
"	30-9			○			○							"	"	13-2			○											
"	30-10			○			○							"	"	13-3			○											
"	30-11			○			○							"	"	13-4			○											
"	30-12			○			○							"	"	13-5			○											
"	30-13			○			○							"	"	13-6			○											
"	30-14			○			○							"	"	14-1			○											
"	30-15			○			○							"	"	14-2			○											
"	30-16			○			○							"	"	14-3			○				○							甲斐か?
17	1-1			○										行敷石岸	"	14-4													○	木片
"	2-1			○			○							年代?	"	15-1			○											半磨盤
"	2-2			○			○							"	"	16-1			○											
"	2-3			○										"	"	17-1			○			○								
"	2-4	43	12						○					"	"	17-2			○											年代?
"	2-5			○										行敷石岸	"	17-3			○											
"	2-6			○										"	"	17-4			○											
"	2-7			○										"	"	17-5			○											
"	3-1			○			○							"	"	17-6			○											
"	3-2			○			○							"	"	17-7			○											
"	3-3			○			○							"	"	17-8			○											
"	3-4			○			○							"	"	17-8			○											
"	4-1			○			○							"	"	17-10			○											

遺構 NO.	遺物 NO.	埴 目 NO.	瓦 器 NO.	土 器 NO.	縄文			弥 生	古 土 器	代 須 恵 器	中 世	近 世	そ の 他	備 考	
					前 期	中 期									後 期
						前 葉	中 葉								
J7	17-11				○										
#	17-12				○										
#	18-1			○											
#	18-2			○											
#	18-3			○											
#	18-4			○											
#	18-5			○											
#	18-6			○											
#	18-7			○											
#	18-8								○						
#	18-9			○											
#	18-10			○											
#	18-11			○											
#	18-12			○											
#	18-13			○											
#	18-14			○											
#	18-15				○										
#	18-16			○											
#	19-1			○											
#	19-2			○											
#	19-3			○											
#	19-4			○									年代?		
#	19-5			○											
#	19-6			○											
#	19-7				○										
#	20-1			○											
#	20-2			○											
#	20-3			○											
#	20-4			○											
#	20-5			○											
#	20-6			○											
#	20-7			○											
#	20-8				○										
#	21-1			○											
#	21-2			○											
#	21-3			○											
#	21-4			○											
#	21-5			○											
#	21-6				○										
#	21-7				○										
#	22-1			○											
#	22-2			○											
#	22-3			○											
#	22-4			○											
#	22-5			○											
#	22-6			○											
#	22-7			○											
#	22-8			○											
#	22-9				○										
#	22-10				○										
#	22-11				○										
#	23-1			○											
#	23-2			○											
J7	24-1				○										
#	24-2				○										
#	24-3				○										
#	24-4				○										
#	24-5					○									
#	24-6					○									
#	24-7					○									
J7	24-8														
#	24-9														
#	24-10														
#	24-11														
#	24-12	43	12										○	鎌倉?	
#	24-13					○									
#	24-14						○							石原路?	
#	24-15														
#	24-16														
#	24-17													年代?	
#	24-18														
#	24-19														
#	24-20														
#	24-21														
#	24-22						○								
#	24-23													年代?	
#	24-24													#	
#	24-25														
#	24-26														
#	24-27														
#	24-28														
#	24-29														
#	24-30														
#	24-31														
#	24-32														
GB	24-33													○	
#	24-34														
#	24-35														
#	24-36														
#	24-37														
#	24-38														
#	24-39														
#	24-40														
#	24-41														
#	24-42														
#	24-43													黒曜石	
#	24-44														
#	24-45														
#	24-46														
#	24-47														
#	24-48														
#	24-49													○ 炭	
#	24-50														
#	24-51														
#	2-3														
#	2-4														

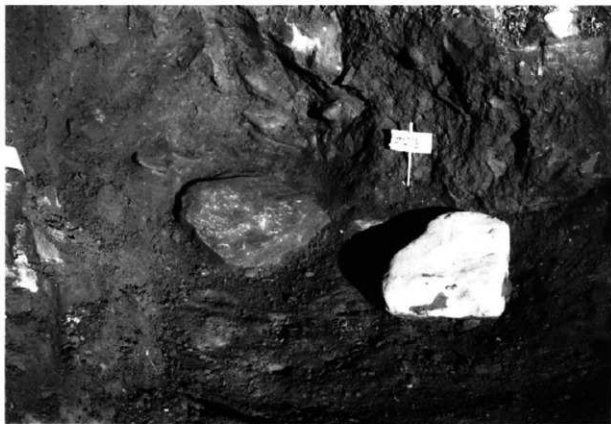
報 告 書 抄 録

ふりがな	ほりいせき							
書 名	堀 遺跡							
副 書 名	特別養護老人ホーム「さくらの里」建設事業							
巻 次	2							
シリーズ名	埋蔵文化財緊急発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	友野 良一							
編集機関	高遠町教育委員会							
所 在 地	〒396-0292 長野県上伊那郡高遠町大字西高遠 1806 番地 Tn0265 - 94 - 2557							
発行年月日	西暦 2001 年 3 月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
ほり いせき 堀 遺跡	たかとおほまちかつま 高遠町勝間 堀	385	2339	35° 49' 20"	138° 04' 10"	平成 12 年 12 月 4 日 ～ 平成 13 年 5 月 16 日	2600	特別養護 老人ホー ム「さく らの里」 建設事業
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
堀		縄文時代 平安時代		縄文時代中期 の住居址 6 基 縄文時代の 生活址 1 址 平安時代の生 活址 2 址 時期不明の 溝状遺構 1 基		縄文中期後葉 の深鉢式土器 平安時代の 灰軸陶器 土師器 須恵器	前回調査に引 き続き、溝状遺 構が検出され たことによっ て、「堀」とい う地名の根元 につながるこ とが予想され る。	

圖 版



第1号住居址



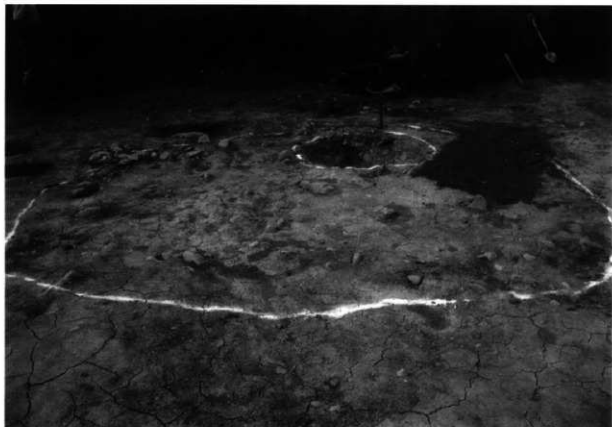
第2号住居址



第4号住居址



第5号住居址



第6号住居址



溝状遺構



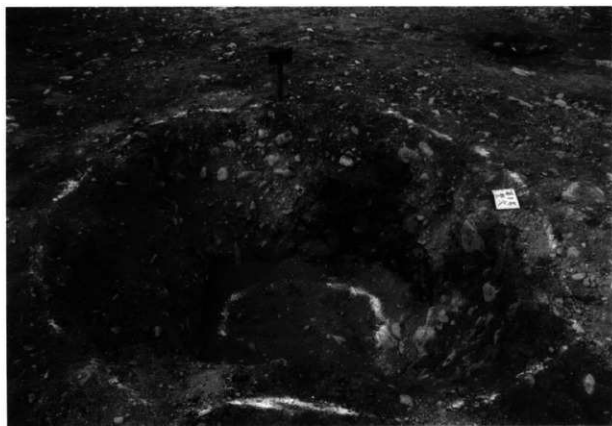
第1号址



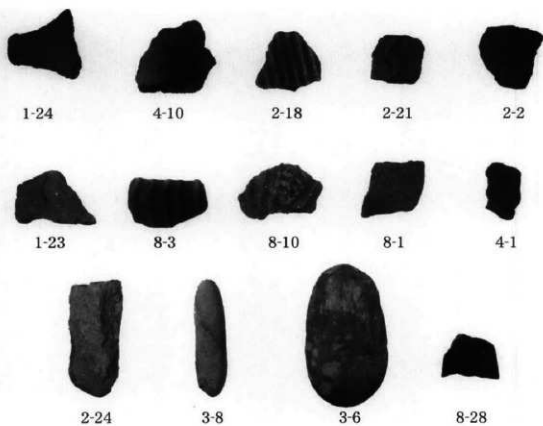
第2号址



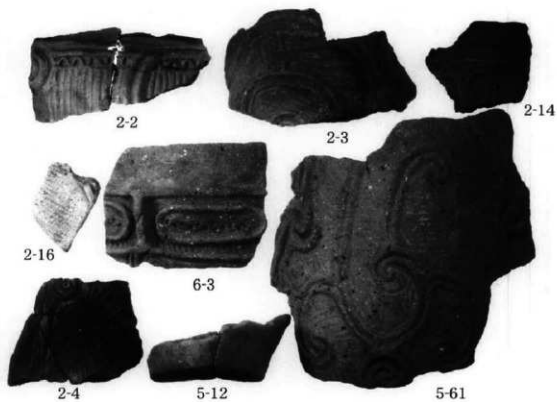
第3号址



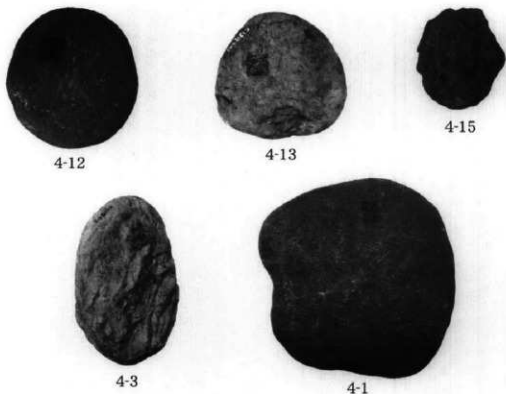
第1号竖穴



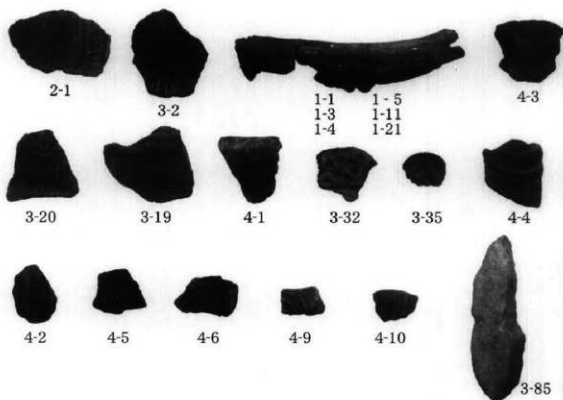
第1号住居址出土遺物 (数字は遺物番号)



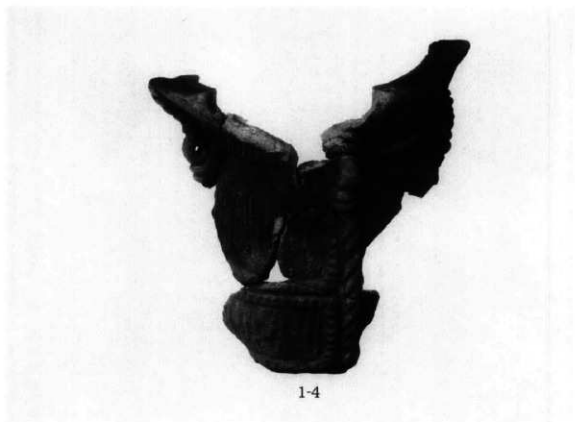
第2号住居址出土遺物-1 (数字は遺物番号)



第2号住居址出土遺物-2 (数字は遺物番号)

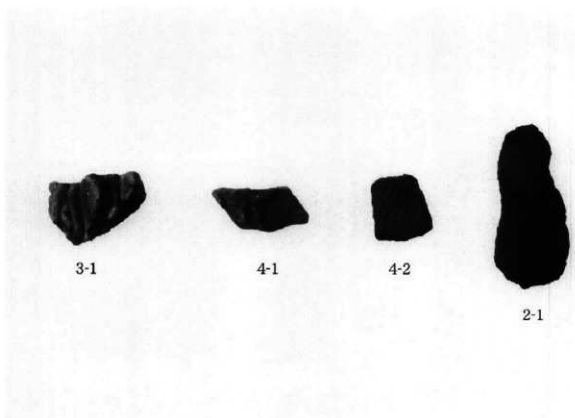


第3号住居址出土遺物 (数字は遺物番号)



1-4

第4号住居址出土遺物 (数字は遺物番号)



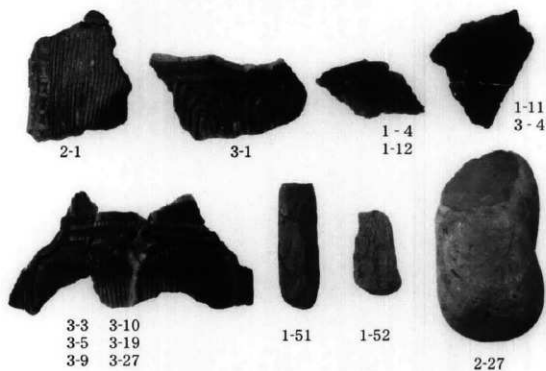
3-1

4-1

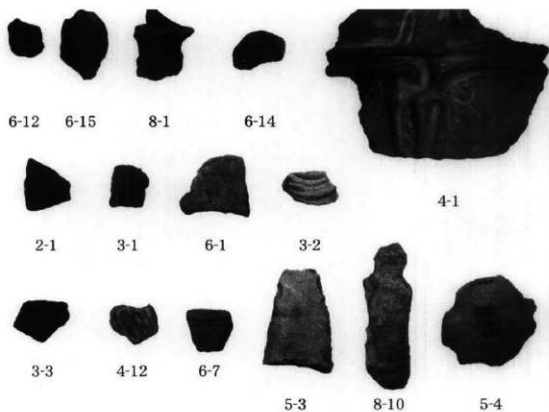
4-2

2-1

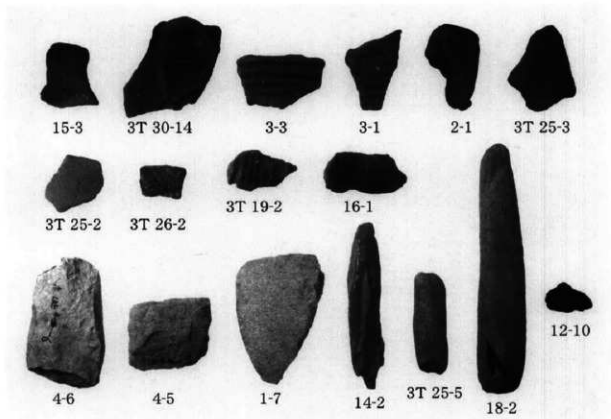
第5号住居址出土遺物 (数字は遺物番号)



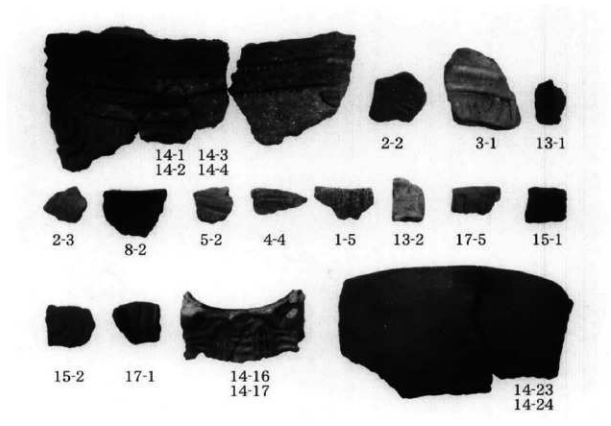
第6号住居址出土遺物 (数字は遺物番号)



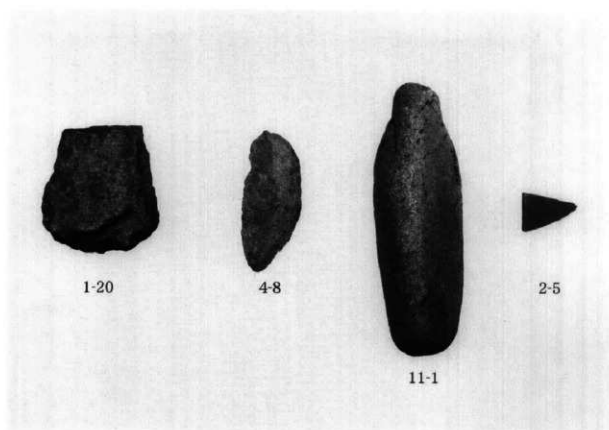
溝状遺構出土遺物 (数字は遺物番号)



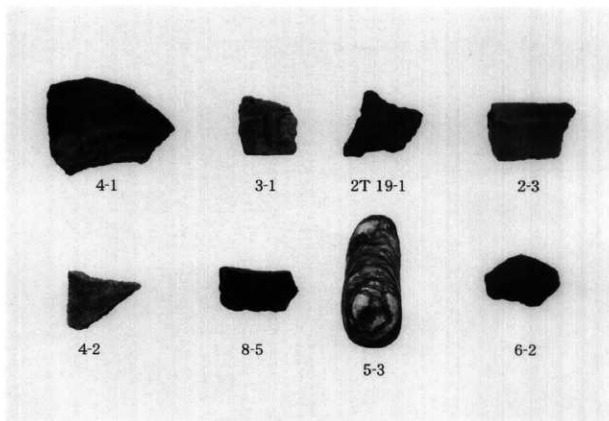
第1号址出土遺物 (数字は遺物番号)



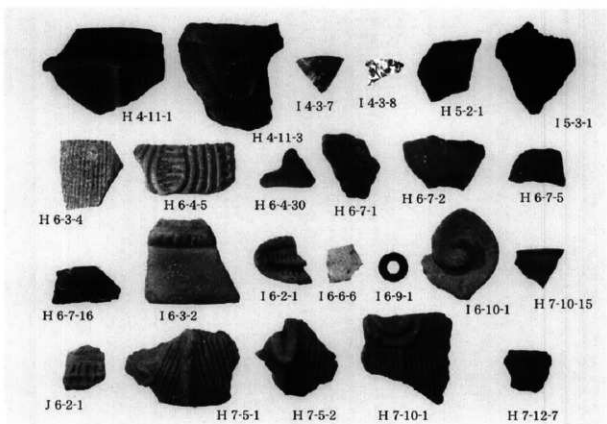
第2号址出土遺物-1 (数字は遺物番号)



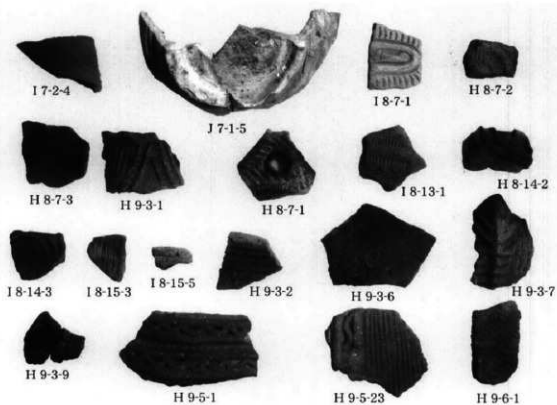
第2号址出土遺物-2 (数字は遺物番号)



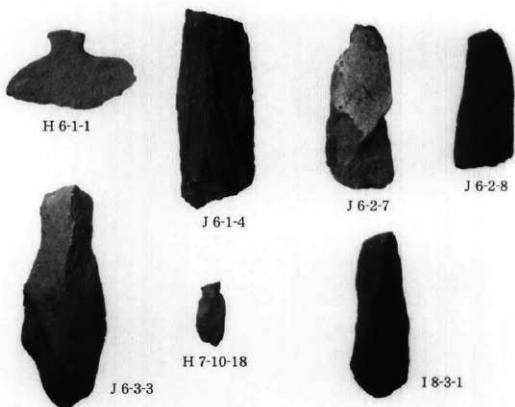
第3号址出土遺物 (数字は遺物番号)



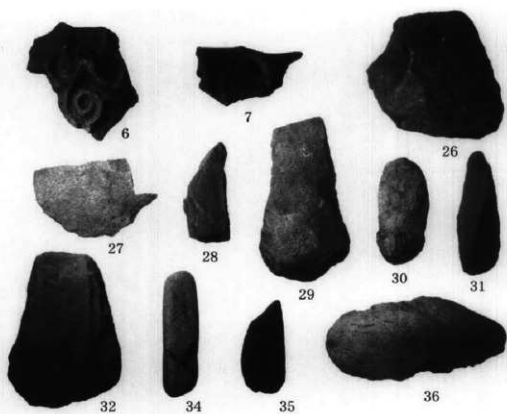
メッシュ遺物-1 (数字は遺物番号)



メッシュ遺物-2 (数字は遺物番号)



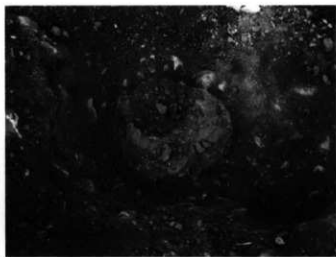
メッシュ遺物-3 (数字は遺物番号)



表採遺物 (数字は遺物番号)



第2号住居址遗物出土状况



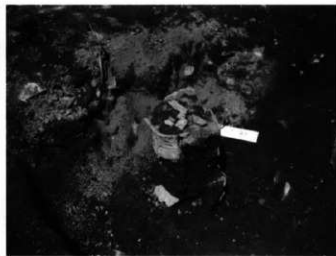
第3号住居址遗物出土状况



第4号住居址遗物出土状况



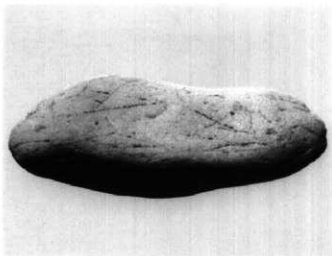
第5号住居址遗物出土状况



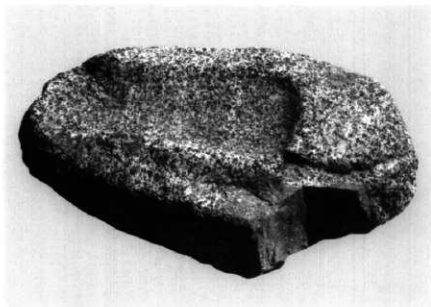
第6号住居址遗物出土状况



第2号住居址出土 石ふた



第1号址出土 石棒



第1号址出土 石皿



第2号址遺物出土状況



第3号址遺物出土状況

特別養護老人ホーム「さくらの里」建設事業

勝間一堀遺跡Ⅱ

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

平成14年3月

編集・発行 社会福祉法人 高遠さくら福祉会
高遠町教育委員会

印刷・製本 アライブ デザインラボ
長野県上伊那郡高遠町東高遠2116

